

# 学校改善支援プラン

令和7年度全国学力・学習状況調査  
調査結果分析を踏まえた7つの提言

令和8年1月  
京都府教育委員会

# 目次

- I 京都府における調査結果の概要
- II 京都府における国語の状況と改善のポイント
  - 1 小学校国語の概要
  - 2 中学校国語の概要
  - 3 小学校国語の設問別調査結果
  - 4 中学校国語の設問別調査結果
  - 5 小学校国語科の授業改善のポイント
  - 6 中学校国語科の授業改善のポイント
- III 京都府における算数・数学の状況と改善のポイント
  - 1 小学校算数の概要
  - 2 中学校数学の概要
  - 3 小学校算数の設問別調査結果
  - 4 中学校数学の設問別調査結果
  - 5 小学校算数科の授業改善のポイント
  - 6 中学校数学科の授業改善のポイント
- IV 京都府における理科の状況と改善のポイント
  - 1 小学校理科の概要
  - 2 中学校理科の概要
  - 3 小学校理科の設問別調査結果
  - 4 中学校理科の設問別調査結果
  - 5 小学校理科の授業改善のポイント
  - 6 中学校理科の授業改善のポイント
- V 質問調査結果
  - 1 児童生徒質問の調査結果について
    - (1) 国語への関心等
    - (2) 算数（数学）への関心等
    - (3) 理科への関心等
    - (4) 規範意識 (5) 自己有用感
    - (6) 生活習慣・学習習慣
    - (7) その他
  - 2 学校質問の調査結果について
    - (1) 国語科の指導方法
    - (2) 算数（数学）科の指導方法
    - (3) 理科の指導方法
    - (4) 授業改善 (5) ICT
    - (6) 生徒指導 (7) 学校運営
    - (8) 教職員の資質能力の向上
    - (9) 家庭や地域との連携等

VI 京都府の結果チャート

VII 調査から見える課題と成果  
質問調査の分析から

VIII 提言  
令和7年度全国学力・学習状況調査 調査結果を踏まえた学力向上7つの提言

# I 京都府における調査結果の概要

# I 京都府における調査結果の概要

## 1 実施概要

- (1) 実施日 令和7年4月17日（木）
- (2) 対象学年 小学校第6学年・中学校第3学年
- (3) 実施教科等

### ア 教科に関する調査

- ・小学校第6学年：国語、算数、理科
- ・中学校第3学年：国語、数学、理科

注：「主として『知識・技能』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」とを一体的に問う問題が出題されている。

注：中学校理科はCBTで実施

### イ 質問調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する児童生徒に対する調査
- ・学校における指導方法に関する取組等の学校に対する調査

注：1人1台端末等を用いたオンライン方式により実施。

## (4) 実施学校・受検児童生徒数 [公立学校（京都市を除く）]

	区 分	実施学校数	児童生徒数
小学校	全 国	18,269校	936,576人
	京都府	194校	8,798人
中学校	全 国	9,272校	871,097人
	京都府	99校	8,541人

注：令和7年4月17日（木）に調査を実施した学校・児童生徒数

## 2 教科に関する調査の実施結果（京都市を除く）

	国語		算数・数学		理科	
	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国
小学校	67	66.8	59	58.0	58	57.1
中学校	54	54.3	48	48.3	491	503

注：中学校理科の結果はIRTスコア・バンドで示されている。

## 3 その他

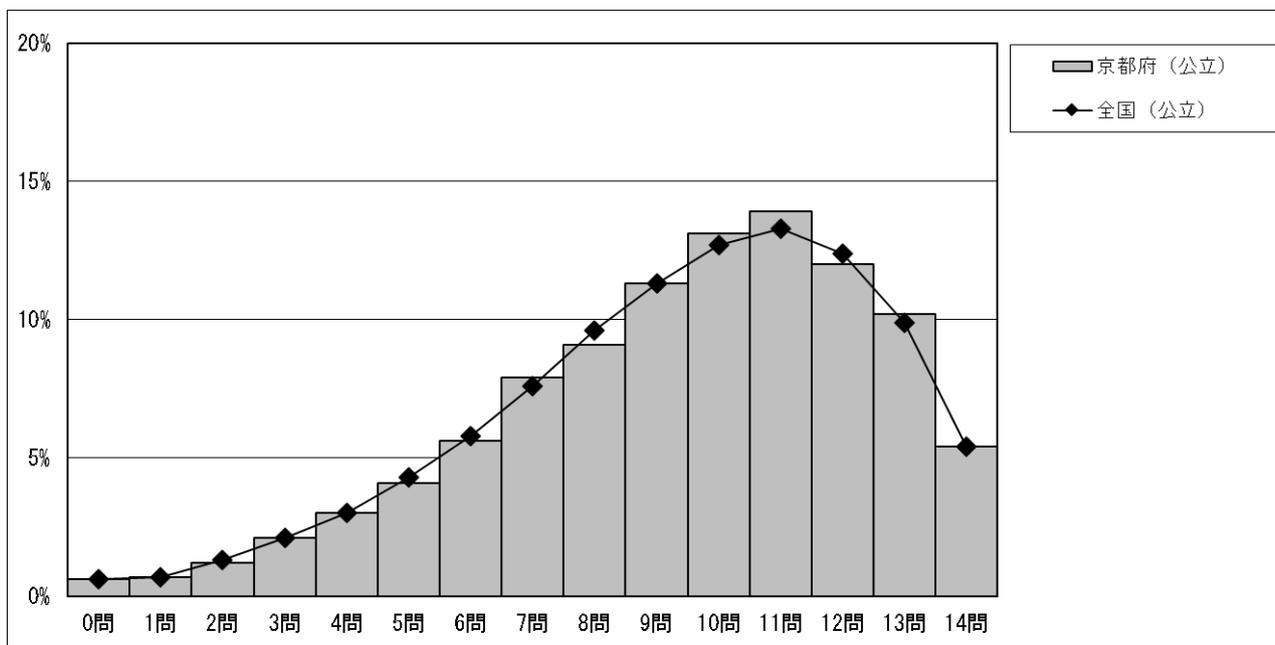
本資料に掲載したデータは、調査実施当日に受検した京都府（京都市を除く）の児童生徒の結果であり、分析も本データを基に行っている。

## Ⅱ 京都府における国語の状況と改善のポイント

\*すべて京都市を除く京都府のデータです

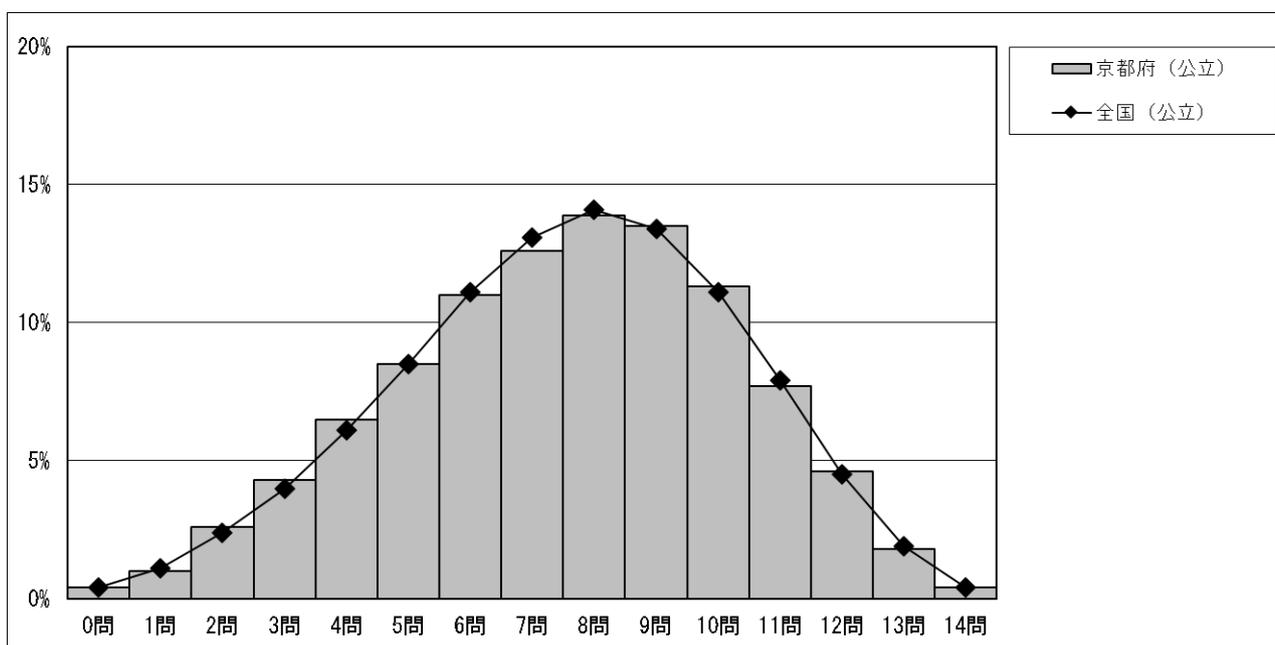
## 1 小学校国語の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,777	9.4 / 14	67	10.0	3.0
全 国	936,137	9.4 / 14	66.8	10.0	3.0



## 2 中学校国語の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,537	7.6 / 14	54	8.0	2.7
全 国	870,560	7.6 / 14	54.3	8.0	2.7



### 3 設問別調査結果 [国語]

### 小学校 [国語]

京都市を除く京都府一児童（公立）

#### 集計結果

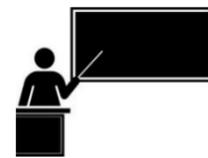
	児童数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,777	194	67
全国（公立）	936,137	18,466	66.8

#### 分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)		
		京都府	全国	
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	78.8	76.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	62.6	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	81.2	81.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	66.2	66.3
		B 書くこと	69.3	69.5
		C 読むこと	58.1	57.5
評価の観点	知識・技能	75.4	74.5	
	思考・判断・表現	63.9	63.8	
	主体的に学習に取り組む態度			
問題形式	選択式	64.6	64.7	
	短答式	79.7	78.5	
	記述式	59.8	58.8	

◇正答率が全国平均を上回っている、もしくは同率の設問が8問ある。そのうち、5問は正答率6割を超えている。無解答率も、全ての問題において全国平均を下回っている、もしくは同率である。

◆正答率が全国平均を下回った設問が6問あり、そのうち6割を下回った設問が1問ある。



#### 設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	52.7	53.3	0.5	0.5
1二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する	情報の扱い方に関する事項	62.6	63.1	0.5	0.5
1三(1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	70.5	71.8	0.5	0.6
1三(2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	75.4	73.7	0.5	0.6
2一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	書くこと	64.7	65.5	0.7	0.8
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	書くこと	82.2	81.8	0.8	0.8
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	書くこと	61.1	61.3	4.1	5.0
2四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す（このみ）	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.0	81.6	5.9	7.2
2四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す（あついで）	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.7	72.1	3.0	4.3
3一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	我が国の言語文化に関する事項	81.2	81.2	1.2	1.3
3二(1)	【木村さんのメモ】の空欄アに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	読むこと	81.3	81.6	2.4	2.9
3二(2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	読むこと	51.6	51.3	1.9	2.4
3三(1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	読むこと	40.9	40.8	2.8	3.4
3三(2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	読むこと	58.5	56.3	12.7	16.2

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題及び無解答率が全国の無解答率より高い問題についてはセルの色を■で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を■で、表示しています。

# 4 設問別調査結果 [国語]

## 中学校 [国語]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

### 集計結果

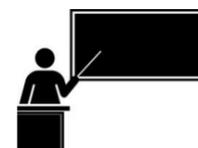
	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,537	98	54
全国（公立）	870,560	9,244	54.3

### 分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)		
		京都府	全国	
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	47.8	48.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	52.4	53.2
		B 書くこと	52.4	52.8
		C 読むこと	62.9	62.3
評価の観点	知識・技能	47.8	48.1	
	思考・判断・表現	55.0	55.3	
	主体的に学習に取り組む態度			
問題形式	選択式	63.4	63.9	
	短答式	71.9	73.6	
	記述式	26.1	25.3	

◇正答率が全国平均を上回っている設問は3問である。それらは正答率6割を超えている。

◆8割の設問で、正答率が全国平均を下回っている。無解答率も半数の設問で、全国平均を上回っている。



### 設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1一	変換した漢字として適切なものを選択する（かいしん）	言葉の特徴や使い方に関する事項	34.0	35.2	0.2	0.2
1二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	書くこと	82.7	82.5	0.3	0.2
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書くこと	61.9	63.3	0.4	0.5
1四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	書くこと	31.5	31.0	1.2	1.6
2一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	37.5	38.1	0.4	0.3
2二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	76.9	77.9	0.4	0.3
2三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	72.9	73.4	0.7	0.6
2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	話すこと・聞くこと	22.4	23.2	2.7	4.0
3一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	読むこと	79.9	80.0	0.6	0.5
3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	読むこと	90.5	89.9	3.3	4.0
3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	61.7	61.0	0.9	0.8
3四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとどのように考えた理由を書く	読むこと	18.2	17.1	24.1	28.1
4一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する	書くこと	53.2	57.3	36.5	33.5
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見つけて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	書くこと	32.4	30.1	16.9	19.1

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題及び無解答率が全国の無解答率より高い問題についてはセルの色を■で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を■で、表示しています

## 5 小学校国語科の授業改善のポイント

小学校 言葉の特徴や使い方に関する事項  
情報の扱い方に関する事項  
我が国の言語文化に関する事項

問題〔1二、2四ア、2四イ、  
3一〕

### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる

〔1二〕(府の正答率 62.6%、全国の正答率 63.1%)

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる(あつい→暑い)

〔2四イ〕(府の正答率 75.7%、全国の正答率 72.1%)

◎学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる(このみ→好み)

〔2四ア〕(府の正答率 82.0%、全国の正答率 81.6%)

◎時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる

〔3一〕(府の正答率 81.2%、全国の正答率 81.2%)

### 解説

・〔1二〕について、インタビューの流れの記録として適切な図を選ぶ問題である。図に整理して記録したものの中から、話の内容や記録の説明に合致していない選択肢を排除することはできている。一方で、インタビューの流れの全体像を捉えることができず、「質問を一つに絞った」と判断してしまっている児童が 19.3%存在する。言語活動を充実させていく中で、目的や意図に沿って、線や囲みなど図示することによって自分なりに情報を整理できるように指導していくことが重要である。また「話す・聞く」、「書く」、「読む」といったあらゆる活動において目的を明確化し、活動それ自体が目的にならないよう留意する必要がある。

### <授業改善のポイント>

○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う

目的や意図に沿って、線や囲みなど図示することによって自分なりに情報を整理できるようにすることが重要である。また、第5学年及び第6学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」の(1)「ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。」との関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。情報の整理の仕方については、様々な方法があり、年間を通じて複数回、意図的に指導することも大切である。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

▲目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる

〔1ー〕(府の正答率 52.7%、全国の正答率 53.3%)

○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる

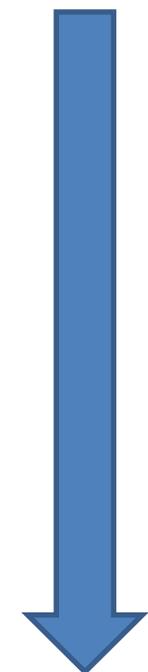
〔1三(1)〕(府の正答率 70.5%、全国の正答率 71.8%)

○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる

〔1三(2)〕(府の正答率 75.4%、全国の正答率 73.7%)

**解説**

- ・〔1三(2)〕について、話者の発言の内容を捉え、それぞれを比較してまとめることはできている。
- ・〔1ー〕について、話者が複数の質問を関連付けていると捉えることはできているが、聞きたいことを相手から引き出そうとしていると捉えることができていないと考えられる児童が 26.9%いる。また〔1三(1)〕について、自分が知りたいことの具体例を引き出そうとしている話者が、相手が伝えたいことの内容を明確にしようとしていると間違えて捉えていると考えられる児童が 15.7%いる。学習指導に当たっては、あらかじめ準備された原稿を読み合う類の活動にとどまらず、実際に応答をする場面において、自分の質問に対する相手の答えを受け止め、その答えに応じて即興的に反応できるようにすることが求められる。自分が知りたいことや疑問に思っていることを整理したり、相手の答えを予想したりするなどの準備をした上で行うインタビュー形式の「話す」「聞く」活動を充実させる必要がある。



**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和7年度)**

URL: [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25plang\\_idea\\_01.pdf#page=10](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25plang_idea_01.pdf#page=10)

**○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる**

話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめるためには、話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることが大切である。学習指導に当たっては、自分が知りたい内容に関する言葉を取り上げ、更に質問しながら理解を深め、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめていけるようにすることが大切である。

○ ①の学習の流れに沿って、課題に応じた三つの場面(集めた材料を分類する場面、伝え合う内容を検討する場面、インタビューをする場面)を取り上げて、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することについての指導事例を紹介している。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる

〔2一〕(府の正答率 64.7%、全国の正答率 65.5%)

◎図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる

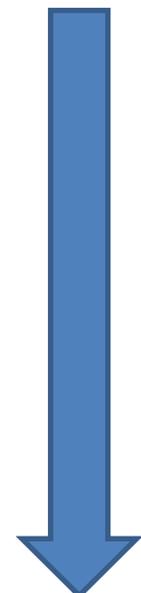
〔2二〕(府の正答率 82.2%、全国の正答率 81.8%)

○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる

〔2三〕(府の正答率 61.1%、全国の正答率 61.3%)

**解説**

- ・〔2一〕については、【解答類型4】は、山田さんが、読み手の目的に応じて読めるように、使い方の手順に沿って書いていると捉えており、伝えたいことの中心を明確にして、内容のまとまりごとに分けて書いていると捉えることができていると認められる児童が 20.4%いる。低学年から系統的に指導し、内容のまとまりや段落相互の関係、文章の構成といった事柄に着目しながら読んだり書いたりすることができるようにすることが大切である。
- ・〔2二〕については、図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- ・〔2三〕については、〈本を読んで分かったこと〉から言葉や文を取り上げて書いているものの、指定された〈使ってみて分かったこと〉から言葉や文を取り上げて書いていない児童が 12.8%いる。



**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和7年度)**

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25plang\\_idea\\_02.pdf#page=15](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25plang_idea_02.pdf#page=15)

○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするためには、書く目的や意図を明確にした上で、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断しながら書き表し方を工夫することが大切である。学習指導に当たっては、文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にすることが重要である。友達と話し合い、読み手の立場から「どこを詳しくすれば目的や意図に応じた文章になるのか」ということを中心にアドバイスし合う場面を設定すると効果的である。

### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる

〔3二（1）〕（府の正答率 81.3%、全国の正答率 81.6%）

▲事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる

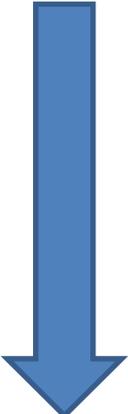
〔3二（2）〕（府の正答率 51.6%、全国の正答率 51.3%）

▲目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる

〔3三（1）〕（府の正答率 40.9%、全国の正答率 40.8%）

▲目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる

〔3三（2）〕（府の正答率 58.5%、全国の正答率 56.3%）



### 解説

- ・〔3二（1）〕では、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができず、適切な言葉を書き抜くことができなかつた児童が 16.2%いる。時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えるためには、どのような順序によって説明されているかを考えながら文章の構造を大づかみに捉え、それを手掛かりに内容を正確に理解できるよう指導することが重要である。
- ・〔3三（1）〕〔3三（2）〕では、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができている。

### <授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和7年度)

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25plang\\_idea\\_03.pdf#page=13](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25plang_idea_03.pdf#page=13)

#### ○文章全体の構成を捉えて要旨を把握する

書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているかを書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめるなどして、内容の中心となる事柄などを捉えることができるよう指導することが必要である。その際、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えることができるように指導することが重要である。

#### ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける

文章中に用いられている図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしたり、文章と図表などの関係を捉えて読んだりすることで、内容についてより深く理解したり解釈したりすることができるよう指導することが大切である。その際、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることが求められる。

## 6 中学校国語科の授業改善のポイント

中学校 言葉の特徴や使い方に関する事項  
情報の扱い方に関する事項  
我が国の言語文化に関する事項

問題

〔1ー〕〔3三〕

### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲文脈に即して漢字を正しく使うことができる

〔1ー〕(府の正答率 34.0%、全国の正答率 35.2%)

○事象や行為を表す語彙について理解している

〔3三〕(府の正答率 61.7%、全国の正答率 61.0%)

### 解説

- ・〔1ー〕について、正答率 34.0%と低い。文脈から意味を捉えることができなかつたか、意味を捉えることはできたものの、「会心」、「改心」、「改新」のいずれを使うのか、正しく判断して選ぶことができなかつたものと考えられる。文脈に即して漢字を正しく使うことに課題がある。
- ・〔3三〕について、「しきりと」という語句の意味についてはおおむね理解していることが分かる。

### <授業改善のポイント>

○ 〔1ー〕について、漢字に変換することが難しかった生徒もいると思われるが、「会心の出来」という言葉そのものを知らなかつた生徒も一定数存在すると考えられる。学習指導要領では、言葉の特徴や使い方に関する事項として、事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることを求めている。系統的に語彙の量を増しながら、話や文章の中で使うことを通じて「使用語彙」へと昇華させていくことが大切である。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

- ▲資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる  
〔2一〕(府の正答率 37.5%、全国の正答率 38.1%)
- 相手の反応を踏まえながら自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる  
〔2二〕(府の正答率 76.9%、全国の正答率 77.9%)
- 自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができる  
〔2三〕(府の正答率 72.9%、全国の正答率 73.4%)
- ▲資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる  
〔2四〕(府の正答率 22.4%、全国の正答率 23.2%)



**解説**

- ・「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は全体を通じて低い傾向がある。
- ・特に〔2一〕及び〔2二〕において、話者の発言の仕方や、話者が発言内容を選択した理由について読み取れていない生徒が多い。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和7年度)**

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mlang\\_idea\\_02.pdf#page=11](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mlang_idea_02.pdf#page=11)

**○資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する**

紹介や報告、説明や提案、主張など、話し手がある程度まとまった話をし、それを聞いて、聞き手が質問や意見、助言、評価などを述べるといった、目的をもった言語活動を設定することが大切である。また、こうした活動を行う際には、何のために、誰を対象に、どのような状況で話すのかを具体的に考え、設定した話題や検討した内容が、それらに合っているかどうかを判断することも意識して指導する必要がある。また、自分の立場や考えが明確になるように話の構成を考えることを通して、自分の考えを形成することや、それが聞き手に分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるよう指導することも重要である。

### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎目的に依じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる

〔1二〕(府の正答率 82.7%、全国の正答率 82.5%)

○書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考慮することができる

〔1三〕(府の正答率 61.9%、全国の正答率 63.3%)

▲自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる

〔1四〕(府の正答率 31.5%、全国の正答率 31.0%)

▲読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる

〔4二〕(府の正答率 32.4%、全国の正答率 30.1%)

▲読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができる

〔4一〕(府の正答率 53.2%、全国の正答率 57.3%)

### 解説

- ・〔1二〕、〔1四〕、〔4二〕について、文章を書く際に伝えたいことの中心を定めたり、それを伝えるために用いる適切な語句を選んだりすることは比較的正しくできている。
- ・〔1三〕では、全国比で正答率が低く、小さくない課題がある。文章の構成や展開について、その意図を読み取ることに課題がみられる。「話す・聞く」、「書く」、「読む」といったあらゆる言語活動を充実させていく中で、活動の目的を明確化し、系統的に資質・能力を育成していく必要がある。
- ・〔4一〕は、「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える」という「書くこと」に関連付けた出題であるが、問題としては「間違っ使われているものを正しいものに直す」という漢字の知識を問うものになっている。字を知っていて読めるだけでなく「文の中で正しく使える」ことが求められる。国語に限らず、日常生活全体を通じて既習の漢字を積極的に「正しく」「使う」ことを意識して指導することが大切である。

### <授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和7年度)

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mlang\\_idea\\_01.pdf#page=11](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mlang_idea_01.pdf#page=11)

○自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く

自分の考えが伝わる文章にするためには、意見とそれを支える根拠を明確にして書くことが重要である。根拠を明確にするためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要である。その際に、接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くよう指導することが大切である。他教科等の学習との関連を図り、生徒や学校の実態に応じて様々な話題を取り上げて書くことも考えられる。

### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる

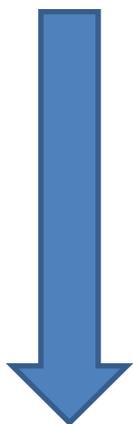
〔3一〕(府の正答率 79.9%、全国の正答率 80.0%)

◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる

〔3二〕(府の正答率 90.5%、全国の正答率 89.9%)

▲文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる

〔3四〕(府の正答率 18.2%、全国の正答率 17.1%)



### 解説

- ・「読むこと」の領域の平均正答率は全国平均と概ね同程度である。
- ・〔3四〕物語の展開とその効果について読み取って書く問題については正答率が18.2%と低く、無解答率も24.1%となっている。特に全体の36.7%が物語の内容を取り上げて記述はできているものの、本問で着目されている「文章の展開」を踏まえて書くことができていない。文章に書かれた内容を理解する力はあるが、書き手の意図を読み取ったり、構成や展開の効果を考えたりすることについては小さな課題がある。

### <授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和7年度)

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mlang\\_idea\\_03.pdf#page=9](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mlang_idea_03.pdf#page=9)

#### ○文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える

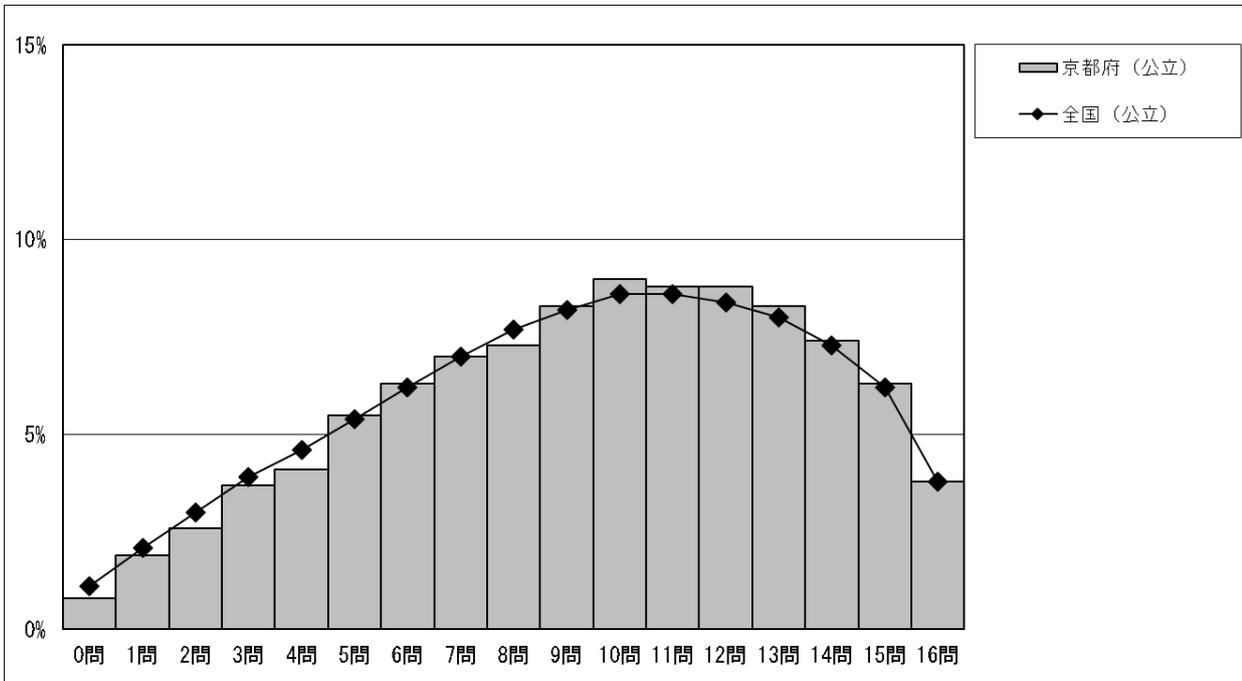
文学的な文章の構成や展開について考えるためには、作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが求められる。ここでは、島崎藤村の「二人の兄弟」を読み、構成や展開について考える活動の事例が紹介されている。文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのかを意識しながら読むことについて指導することが大切である。

### Ⅲ 京都府における算数・数学の状況と 改善のポイント

\*すべて京都市を除く京都府のデータです

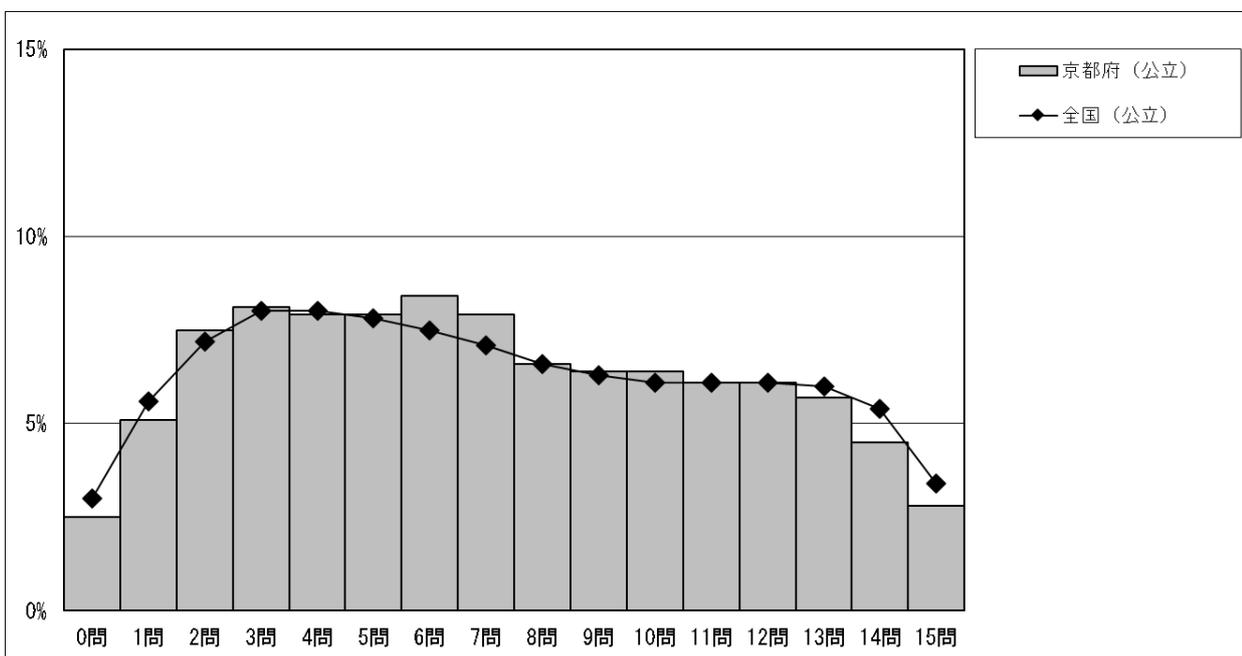
## 1 小学校算数の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,781	9.4 / 16	59	10.0	4.0
全 国	936,399	9.3 / 16	58.0	10.0	4.0



## 2 中学校数学の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,541	7.2 / 15	48	7.0	4.1
全 国	871,097	7.2 / 15	48.3	7.0	4.2



### 3 設問別調査結果 [算数]

### 小学校 [算数]

京都市を除く京都府一児童（公立）

#### 集計結果

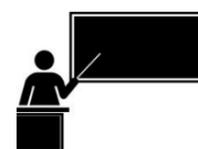
	児童数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,781	194	65
全国（公立）	936,399	18,265	63.4

◇正答率が全国平均を上回っている設問は9問である。無解答率は、全ての問題において全国平均よりも低い。

◆正答率が6割を下回る設問が7問ある。うち、2問は全国正答率も下回っている。

#### 分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域	A 数と計算	63.2	62.3
	B 図形	57.4	56.2
	C 測定	58.0	54.8
	C 変化と関係	58.2	57.5
	D データの活用	63.0	62.6
評価の観点	知識・技能	66.4	65.5
	思考・判断・表現	49.2	48.3
	主体的に学習に取り組む態度		
問題形式	選択式	67.2	67.2
	短答式	65.5	64.0
	記述式	36.4	34.9



#### 設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1 (1)	2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	数と計算 データの活用	77.9	78.7	0.3	0.4
1 (2)	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	データの活用	32.2	31.0	0.8	0.9
1 (3)	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	データの活用	70.5	71.6	3.1	3.5
1 (4)	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロッコリー4個の重さを求める式と答えを書く	数と計算	76.3	74.5	1.8	2.6
2 (1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	図形	60.0	58.3	0.9	1.2
2 (2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	図形	53.7	50.2	0.5	0.7
2 (3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	図形	78.6	79.3	0.7	1.0
2 (4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	図形	37.1	37.0	1.8	2.7
3 (1)	0.4 + 0.05について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く	数と計算	72.7	74.1	2.1	2.8
3 (2)	$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	数と計算	24.1	23.0	12.4	15.7
3 (3)	数直線に示された数を分数で書く	数と計算	32.7	35.0	6.2	7.8
3 (4)	$\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算する	数と計算	87.1	81.3	2.5	4.1
4 (1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	数と計算 変化と関係 データの活用	82.5	82.8	2.1	2.6
4 (2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	式と計算 測定 変化と関係 データの活用	52.0	48.7	2.3	3.4
4 (3)	はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む	測定	64.1	60.9	3.4	4.2
4 (4)	10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	変化と関係	40.2	40.9	3.4	4.1

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題及び無解答率が全国の無解答率より高い問題についてはセルの色を   で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を   で、表示しています。

# 4 設問別調査結果 [数学]

## 中学校 [数学]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

### 集計結果

	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,537	98	48
全国（公立）	870,560	9,244	48.3

◇ 1問を除いて、無解答率が全国平均よりも低い。

◆ 正答率が全国平均を下回っている設問が9問あり、特に数学的な概念の理解を問う問題においては正答率が6割を下回っている。

### 分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域	A 数と式	42.5	43.5
	B 図形	46.1	46.5
	C 関数	48.2	48.2
	D データの活用	58.0	58.6
評価の観点	知識・技能	53.6	54.4
	思考・判断・表現	38.9	39.1
	主体的に学習に取り組む態度		
問題形式	選択式	52.3	54.0
	短答式	51.5	52.0
	記述式	39.6	39.6



### 設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	数と式	26.9	31.8	0.9	0.7
2	果汁40%の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を、a を用いた式で表す	数と式	54.3	51.9	6.1	7.3
3	△ABCにおいて、∠Aの大きさが50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	図形	56.6	58.1	1.4	2.0
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める	関数	33.4	34.7	6.3	8.0
5	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める	データの活用	38.0	42.5	8.4	9.4
6 (1)	連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	数と式	64.4	62.8	3.8	4.6
6 (2)	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する	数と式	23.8	25.7	22.8	24.9
6 (3)	連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する	数と式	43.0	45.2	18.6	20.2
7 (1)	Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	データの活用	78.8	77.4	2.7	3.2
7 (2)	Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	データの活用	57.3	55.9	1.5	2.2
8 (1)	A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅間の走行距離が分かるかを選ぶ	関数	71.5	71.9	2.0	2.3
8 (2)	A駅から60.0 km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	関数	39.7	38.0	31.3	35.0
9 (1)	四角形AECFが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	図形	58.4	58.5	1.0	1.1
9 (2)	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する	図形	35.3	36.3	5.5	7.2
9 (3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	図形	34.4	33.2	29.2	31.5

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題及び無解答率が全国の無解答率より高い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています。

## 5 小学校算数科の授業改善のポイント

### 小学校 A 数と計算

問題 〔1(1)〕〔1(4)〕〔3(1)〕〔3(2)〕  
〔3(4)〕〔4(1)〕〔4(2)〕

#### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができる

〔1(4)〕(府の正答率 76.3%、全国の正答率 74.5%)

○小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができる

〔3(1)〕(府の正答率 72.7%、全国の正答率 74.1%)

▲分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述できる

〔3(2)〕(府の正答率 24.1%、全国の正答率 23.0%)

▲数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉えることができる

〔3(3)〕(府の正答率 32.1%、全国の正答率 35.0%)

◎異分母の分数の加法の計算をすることができる

〔3(4)〕(府の正答率 87.1%、全国の正答率 81.3%)

#### 解説

- ・〔3(1)〕について、小数の加法について、数を構成する単位に着目して相対的な大きさについて理解し、整数の加法に帰着し考えることはおおむねできている。
- ・〔3(2)〕について、通分することは理解しているが、共通する単位分数がいくつであるかや、それぞれの数とその単位分数のいくつ分であるかの記述ができていない児童が 26.9%いる。
- ・〔3(3)〕について、1を基準として一目盛りが何分の1であるかを正しく捉えられていない児童が多い。
- ・〔3(4)〕について、異分母の分数の加法や減法の計算の技能は身に付いている。

#### <授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath\\_idea\\_03.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath_idea_03.pdf)

○小数や分数の計算の仕方について統合的・発展的に考察できるようにする

数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数や分数の計算の仕方について、統合的・発展的に考察できるようにすることが大切である。例えば、分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考察する活動が考えられる。その際、分数は二つの数の関係で一つの数が表されており、構成する単位が分数によって異なることに着目する必要があることに気付くことができるようにすることが大切である。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

○平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができる

〔2(1)〕(府の正答率 60.0%、全国の正答率 58.3%)

▲台形の意味や性質について理解している

〔2(2)〕(府の正答率 53.7%、全国の正答率 50.2%)

○角の大きさについて理解している

〔2(3)〕(府の正答率 78.6%、全国の正答率 79.3%)

▲基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できる

〔2(4)〕(府の正答率 37.1%、全国の正答率 37.0%)

**解説**

- ・〔2(1)〕について、コンパスを用いて平行四辺形を作図する方法をおおむね理解している。
- ・〔2(2)〕について、台形の性質について半数程度の児童は理解しているが、性質ではなくおおまかな形で台形と捉えている児童も見られる。
- ・〔2(3)〕について、角の大きさを辺の開き具合として捉えることができている。
- ・〔2(4)〕について、既習の図形の面積の求め方をもとに、五角形の面積の求め方を説明することに課題がある。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」**

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath\\_idea\\_02.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath_idea_02.pdf)

**○既習の考えや経験を基に図形の面積の求め方を考えることができるようにする**

第5学年では、第4学年における長方形や正方形の面積の学習を踏まえ、直線で囲まれた基本的な図形の面積について、必要な部分の長さを測り、既習の長方形や正方形などの面積の求め方に帰着させ、計算によって求めることができるようにすることが大切である。その上で、基本図形以外の図形の面積についても、既習の図形の面積の求め方に帰着させ、計算によって求めることができるようにすることが大切である。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

◎伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる

〔4(1)〕(府の正答率 82.5%、全国の正答率 82.8%)

▲伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる

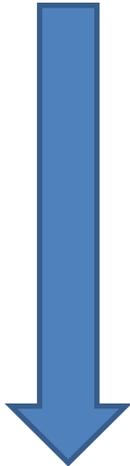
〔4(2)〕(府の正答率 52.0%、全国の正答率 48.7%)

○はかりの目盛りを読むことができる

〔4(3)〕(府の正答率 64.1%、全国の正答率 60.9%)

▲「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができる

〔4(4)〕(府の正答率 40.2%、全国の正答率 40.9%)



**解説**

- ・〔4(1)〕について、ハンドソープを使用する場面において伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができている。
- ・〔4(2)〕について、状況に応じて必要な数量を見いだすことができている児童が66.1%いる。
- ・〔4(3)〕について、はかりの目盛りを正しく読めている児童がおおむねであるが、最小目盛りの大きさを1gや10gといった思い込みで読む児童も見られる。
- ・〔4(4)〕について、10%が0.1であることは理解できているが、10%増量が110%であることを理解できていない児童が42.3%いる。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」**

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath\\_idea\\_04.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath_idea_04.pdf)

○日常生活の問題を解決するために、伴って変わる二つの数量の関係に着目し必要な数量を見いだすことができるようにする

日常生活において、ある一つの数量を調べようとするとき、その数量を直接調べるのが難しい場合は、関数の考えを用いて、その数量と関係のある他の数量を見いだすことができるようにすることが大切である。

直接調べにくい数量を求めるためにその数量と関係のある他の数量を見いだす活動も考えられる。その際、一方の数量を決めればもう一方の数量が決まるかどうか、又は、一方の数量は他の数量に伴って一定のきまりに従って変化するかどうか、というような見方で必要な数量を見いだすことができるようにすることが大切である。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる

〔1(1)〕(府の正答率 77.9%、全国の正答率 78.7%)

▲目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる

〔1(2)〕(府の正答率 32.3%、全国の正答率 31.0%)

○簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができる

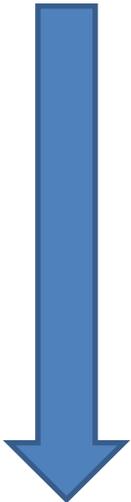
〔1(3)〕(府の正答率 70.5%、全国の正答率 71.6%)

◎伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる

〔4(1)〕(府の正答率 82.5%、全国の正答率 82.8%)

▲伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる

〔4(2)〕(府の正答率 52.0%、全国の正答率 48.7%)



**解説**

- ・〔1(1)〕について、棒グラフから項目間の関係を読み取ることはおおむねできている。
- ・〔1(2)〕について、2023年は2013年より増えたと判断できている児童が76.0%いるが、うち半数以上が、どこに注目したか理由を正しく表現できていない。
- ・〔1(3)〕について、二次元の表から条件に合った項目を選ぶことはできている。
- ・〔4(1)〕について、ハンドソープを使用する場面において伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができている。
- ・〔4(2)〕について、状況に応じて必要な数量を見いだすことができている児童が66.1%いる。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」**

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25math\\_idea\\_01.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25math_idea_01.pdf)

○目的に応じて、適切なグラフや表を選択して判断できるようにする

統計的に問題を解決する際、目的に応じて、必要なデータを収集し、適切なグラフや表を選択して判断できるようにすることが大切である。

例えば、ニュースから問いが生まれ、その問いについて調べる活動が考えられる。複数の資料から、立てた問いを解決するという目的に応じて、適切なグラフを選択し、問いを解決できるようにすることが大切である。

## 6 中学校数学科の授業改善のポイント

### 中学校 数と式

問題〔1〕〔2〕〔6(1)〕〔6(2)〕〔6(3)〕

#### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲素数の意味を理解しているか

〔1〕(府の正答率 26.9%、全国の正答率 31.8%)

▲数量を文字を用いた式で表すことができるか

〔2〕(府の正答率 54.3%、全国の正答率 51.9%)

○事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるか

〔6(1)〕(府の正答率 64.4%、全国の正答率 62.8%)

▲式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるか

〔6(2)〕(府の正答率 23.8%、全国の正答率 25.7%)

▲目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるか

〔6(3)〕(府の正答率 43.0%、全国の正答率 45.2%)

#### 解説

- ・〔1〕について、1を素数と解答している生徒が55.8%おり、半数以上の生徒が1が素数に含まれると捉えていると考えられる。
- ・〔2〕について、40%が0.4であることや、(飲み物の量)×(果汁の割合)=(果汁の量)であることを理解できていない生徒がいると考えられる。
- ・〔6(1)〕について、和が9の倍数ではない2数を解答しているが、2数が連続する3の倍数でとなっていない生徒が13.2%いる。
- ・〔6(2)〕について、式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- ・〔6(3)〕について、無解答の生徒が18.6%いる。記述している生徒の中でも、9の倍数であることを説明するために、式を $9 \times (\text{整数})$ の形にすればよいことを捉えられていない生徒が多い。

#### <授業改善のポイント> 国立教育政策研究所 報告書(令和7年度)

##### ○素数の意味を理解できるようにする

1とその数自身以外には約数をもたない数の集合が素数であることを理解できるように指導することが大切である。

##### ○式の意味を読み取り、事柄の特徴を数学的に説明できるようにする

本設問を使って授業を行う際には、まず、連続する二つの3の倍数の和がどのような数になるかを文字式を用いて考察する場面を設定することが大切である。その上で、和を計算した式を変形した式が $3 \times (\text{整数})$ となっていれば、「3の倍数である」、 $2 \times (\text{整数}) + 1$ となっていれば、「2の倍数に1を加えた数」つまり「奇数である」という結論を見いだせるように指導することが大切である。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

▲多角形の外角の意味を理解しているか

〔3〕(府の正答率 56.6%、全国の正答率 58.1%)

○証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるか

〔9(1)〕(府の正答率 58.4%、全国の正答率 58.5%)

▲統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるか

〔9(2)〕(府の正答率 35.3%、全国の正答率 36.3%)

▲ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるか

〔9(3)〕(府の正答率 34.4%、全国の正答率 33.2%)

**解説**

- ・〔3〕について、頂点 A における外角を  $360^\circ$  から頂点 A における内角を引いた角であると捉えている生徒が 30.3%いる。外角の意味を正しく理解できるよう指導することが大切である。
- ・〔9(1)〕について、すでに分かっている関係と新たに分かる関係を混同している生徒がいる。中でも、平行四辺形 ABCD の辺の関係と平行四辺形 AECF の辺の関係を混同している生徒が多い。
- ・〔9(2)〕について、書き直す部分は捉えているが、「 $AF = AD + DF$ 」、「 $EC = BC + BE$ 」と捉えることができなかつた生徒がいると考えられる。証明したことを基に、元の証明を評価・改善することを通して、条件を変えた場合の証明ができるように指導することが大切である。
- ・〔9(3)〕について、無解答の生徒が 29.2%いる。仮定や仮定から分かる事柄、結論を導くために必要な事柄を明らかにするなどして証明の方針を立て、その方針を基に推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「学習活動の例(令和7年度)」**

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mmath\\_idea\\_09.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mmath_idea_09.pdf)

○問題の条件を変えて共通する性質を見いだすなど、統合的・発展的に考察することができるようにする

図形の性質を考察する場面では、条件を変えても同様の性質が成り立つかどうかを検討するなど、統合的・発展的に考察することができるように指導することが大切である。

学習活動を通して、条件を変えても同様の性質が成り立つのかという疑問をもち、自分なりに探究していこうとする態度を養うことも大切である。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

▲一次関数  $y = ax + b$  について、変化の割合を基に、 $x$  の増加量に対する  $y$  の増加量を求めることができるか

〔4〕(府の正答率 33.4%、全国の正答率 34.7%)

○事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるか

〔8(1)〕(府の正答率 71.5%、全国の正答率 71.9%)

▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるか

〔8(2)〕(府の正答率 39.7%、全国の正答率 38.0%)

**解説**

- ・〔4〕について、増加量や変化の割合の意味の理解が十分でない生徒がいる。特に、 $y$  の増加量を  $y$  の値と混同している生徒が 29.0%いる。増加量や変化の割合の意味、一次関数の変化の割合が一定であることを確認した上で、変化の割合を基に、 $x$  の増加量に対する  $y$  の増加量を求めることができるように指導することが大切である。
- ・〔8(1)〕について、表やグラフから読み取ったことが具体的な事象では何を表しているかを捉える活動を取り入れることが考えられる。
- ・〔8(2)〕について、無解答の生徒が 31.3%いる。様々な問題を数学を用いて解決できるようにするために、問題解決の見通しを立てる場面や、問題解決の過程や結果を振り返る場面において、数学を活用する方法を考え、説明できるように指導することが大切である。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」**

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mmath\\_idea\\_08.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mmath_idea_08.pdf)

**○日常生活や社会の事象における問題の解決に関数を活用できるようにする**

日常生活や社会の事象における問題において、その事象を理想化したり単純化したりすることで、二つの数量の関係を比例と仮定して問題を解決できるようにすることが大切である。さらに、問題解決の過程を振り返り、日常生活や社会の事象における数量の関係を比例と仮定して問題解決することのよさなどを話し合う活動を取り入れることが考えられる。

このような活動を通して、日常生活や社会の事象の中の関数関係に着目し、問題を解決できるようにすることや、関数を活用することのよさを実感できるようにすることが大切である。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

▲相対度数の意味を理解しているか

〔5〕(府の正答率 38.0%、全国の正答率 42.5%)

○必ず起こる事柄の確率について理解しているか

〔7(1)〕(府の正答率 78.8%、全国の正答率 77.4%)

▲不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるか

〔7(2)〕(府の正答率 57.3%、全国の正答率 55.9%)

**解説**

- ・〔5〕について、相対度数の意味を理解していない生徒がいる。中でも、階級の度数と混同している生徒が 18.6%いる。データの特徴を読み取る活動を通して、相対度数の必要性和意味を理解できるように指導することが大切である。
- ・〔7(1)〕について、他の代表値と混同して答えている生徒が 14.2%いる。意味を正しく理解できるように指導する必要がある。
- ・〔7(2)〕について、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに引き続き課題があると考えられる。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」**

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mmath\\_idea\\_07.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mmath_idea_07.pdf)

○確率を用いることの意義やよさを実感できるようにする

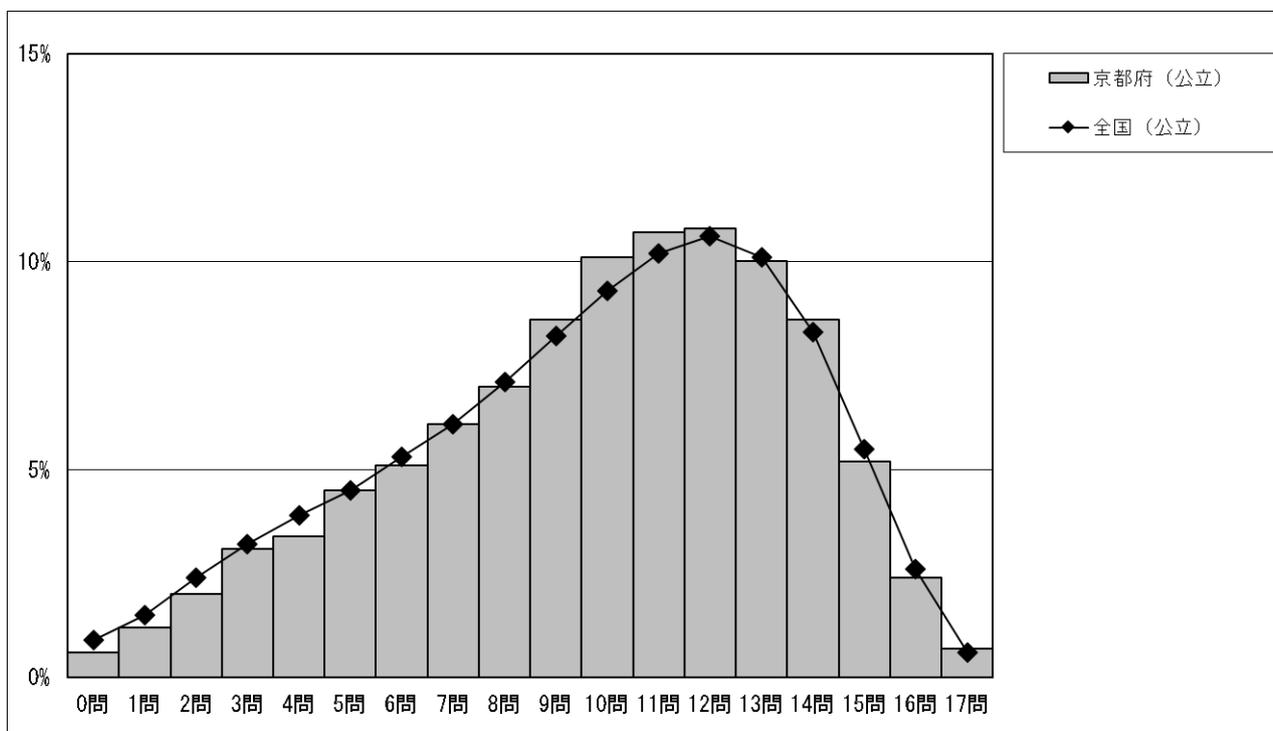
起こりやすさの傾向について直観的に予想したことが正しいかどうかや、条件を変えた場合について、確率を用いて考察し判断する過程や結果を通して、確率を用いることの意義やよさを実感できるようにすることが大切である。

## IV 京都府における理科の状況と改善のポイント

\*すべて京都市を除く京都府のデータです

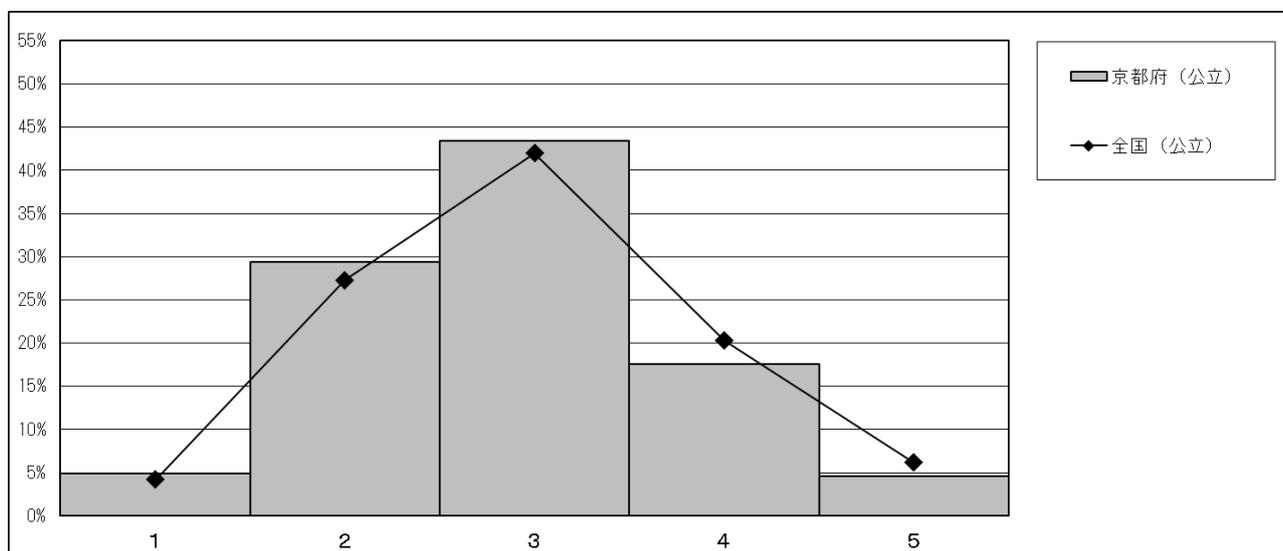
## 1 小学校理科の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,796	9.8 / 17	58	10.0	3.7
全 国	947,579	9.7 / 17	57.1	10.0	3.8



## 2 中学校理科の概要

	生徒数	平均IRTスコア	標準偏差	IRTバンド割合 (%)				
				1	2	3	4	5
京都府	8,579	491	118.4	4.9	29.4	43.4	17.6	4.6
全 国	864,634	503	124.0	4.2	27.3	42.0	20.3	6.2



### 3 設問別調査結果 [理科]

### 小学校 [理科]

京都市を除く京都府一児童（公立）

#### 集計結果

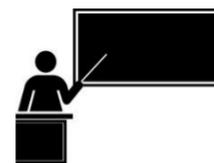
	児童数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,796	194	58
全国（公立）	936,576	18,150	57.1

#### 分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域	A「エネルギー」を柱とする	46.5	46.7
	A「粒子」を柱とする領域	51.6	51.4
	B「生命」を柱とする領域	54.6	52.0
	B「地球」を柱とする領域	66.5	66.7
評価の観点	知識・技能	56.3	55.3
	思考・判断・表現	59.2	58.7
	主体的に学習に取り組む態度		
問題形式	選択式	55.0	54.7
	短答式	72.2	69.7
	記述式	44.8	45.2

◇正答率が全国平均を上回っている設問が13問ある。無解答率も、全ての問題において全国平均よりも低い。

◆正答率が6割を下回る設問が8問ある。うち、半数の設問においては、全国正答率を下回っている。



#### 設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1 (1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	地球	80.1	79.5	1.8	2.5
1 (2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	地球	59.0	60.5	6.1	8.5
1 (3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	地球	78.7	77.8	0.5	0.9
2 (1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	エネルギー 粒子	9.7	10.6	0.4	0.6
2 (2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	エネルギー	41.9	42.9	0.4	0.6
2 (3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	エネルギー	78.9	78.0	1.7	2.7
2 (4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	エネルギー	55.3	55.1	0.4	0.8
3 (1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	生命	77.4	70.7	0.7	1.5
3 (2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	生命	47.9	45.6	0.5	0.8
3 (3)	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ	生命	62.6	62.0	1.3	1.7
3 (4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く	生命	30.5	29.9	8.2	11.4
4 (1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	粒子	52.4	50.6	4.5	6.1
4 (2) イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	粒子 地球	63.0	64.2	0.9	1.3
4 (2) エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	粒子 地球	56.5	57.5	1.0	1.5
4 (3) カ	海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ	粒子	61.4	59.8	1.6	2.3
4 (3) キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ	地球	61.5	60.9	1.6	2.4
4 (3) ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	粒子	66.6	65.6	1.7	2.5

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題及び無解答率が全国の無解答率より高い問題についてはセルの色を   で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を   で、表示しています。

# 4 設問別調査結果 [理科]

## 中学校 [理科]

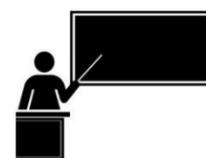
京都市を除く京都府一生徒（公立）

### 集計結果

	生徒数	学校数	平均RTスコア
京都府（公立）	8,579	98	491
全国（公立）	864,634	9,244	503

◇全ての設問において、無解答率が全国平均よりも低い。

◆7割の設問において、正答率が全国平均より低い。特に難易度が高い設問においては、全国平均よりも低い傾向にある。



### 分類・区別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域	A「エネルギー」を柱とする領域	42.5	43.5
	A「粒子」を柱とする領域	46.1	46.5
	B「生命」を柱とする領域	48.2	48.2
	B「地球」を柱とする領域	58.0	58.6
評価の観点	知識・技能	53.6	54.4
	思考・判断・表現	38.9	39.1
	主体的に学習に取り組む態度		
問題形式	選択式	52.3	54.0
	短答式	51.5	52.0
	記述式	39.6	39.6

### 設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率		問題の難易度
			府(※)	全国	府	全国	
1(1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	エネルギー	51.3	51.9	0.3	0.2	5
1(2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	粒子	39.8	46.2	9.2	8.0	5
1(3)	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	地球	36.1	36.2	0.4	0.6	5
1(4)	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	生命	30.7	29.7	0.1	0.2	5
1(5)	塩素の元素記号を記述する	粒子	42.0	44.9	8.7	8.5	4
1(6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	粒子	77.9	79.4	9.8	9.9	3
2(1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	エネルギー	11.4	14.0	1.3	1.9	5
2(2)	「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	エネルギー	94.9	94.6	0.1	0.1	2
3(1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	エネルギー	36.0	34.9	0.1	0.2	5
3(2)	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する	エネルギー	88.8	85.2	0.0	0.1	2
4(1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大きさを判断し、小さい順に並べる	粒子	45.8	50.4	0.2	0.1	4
4(2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	粒子	92.6	92.8	0.2	0.1	2
5(1)	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	粒子	91.4	93.0	0.1	0.1	1
5(2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	粒子	29.4	35.6	4.9	4.6	4
6(1)	牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	生命	70.0	65.9	0.0	0.2	4
6(2)	牧野富太郎の「サクヨリ」のスケッチから、サクヨリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	生命	38.6	41.9	0.0	0.1	4
7(1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	生命	32.0	34.8	0.2	0.2	5
7(2)	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する	粒子 生命	45.9	51.6	0.3	0.2	5
8(1)	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する	地球	40.5	42.2	2.5	3.2	4
8(2)	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	地球	17.9	18.1	1.4	1.1	5
9(1)	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	地球	29.7	31.8	0.3	0.3	5
9(2)	クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する	地球	54.3	58.1	0.2	0.3	4

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題及び無解答率が全国が無解答率より高い問題についてはセルの色を   で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を   で、表示しています。

## 5 小学校理科の授業改善のポイント

### 小学校 エネルギー

問題〔2(1)〕〔2(2)〕〔2(3)〕〔2(4)〕

#### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○、○)と課題(▲)

▲身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている

〔2(1)〕(府の正答率 9.7%、全国の正答率 10.6%)

▲電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができる

〔2(2)〕(府の正答率 41.9%、全国の正答率 42.9%)

○電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いている

〔2(3)〕(府の正答率 78.9%、全国の正答率 78.0%)

▲乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いている

〔2(4)〕(府の正答率 55.3%、全国の正答率 55.1%)

#### 解説

- ・〔2(1)〕について、電気を通す物と磁石に引き付けられる物に関する知識が身に付いていない児童が多い。アルミニウム、鉄、銅のいずれも電気を通さないと解答している児童が 79.1%いる。
- ・〔2(2)〕について、「電気を通さない持ち手」が回路の一部に含まれることで、回路の一部が切れて電気が通らないことを理解していない児童が 40.7%いる。
- ・〔2(3)〕について、電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることが知識として身に付いている。
- ・〔2(4)〕について、半数以上の児童が乾電池の直列つなぎの特徴を理解している。

#### <授業改善のポイント> 国立教育政策研究所 報告書(令和7年度)

##### ○ものづくりの活動を通して深まる学び

ものづくりの活動は、問題解決の活動の一形態である。児童が明確な目的を設定し、その目的を達成するために行う活動であり、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正するといった活動が大切である。

例えば、本問のように「磁石の性質」と「電気の通り道」など複数の内容を生かしたものづくりの活動をする場合は、児童がつくりたいものを構想する前に、それぞれの内容で習得した知識を整理してまとめるとよい。つくったものを動かし、構想したとおりになっているかを振り返り、修正するといったものづくりの活動を通して、知識と知識、知識と具体物とを相互に関係付けて意味を捉えるようにすることで、学習内容を深く理解することができると考えられる。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

▲水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるか

〔4(1)〕(府の正答率52.4%、全国の正答率50.6%)

○水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している

〔4(2)イウ〕(府の正答率63.0%、全国の正答率64.2%)

▲水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している

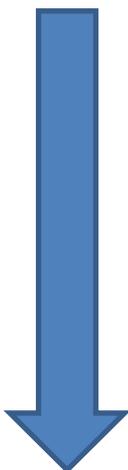
〔4(2)エオ〕(府の正答率56.5%、全国の正答率57.5%)

○水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができる

〔4(3)カ〕(府の正答率61.4%、全国の正答率59.8%)

○「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができる

〔4(3)ク〕(府の正答率61.4%、全国の正答率59.8%)



**解説**

- ・〔4(1)〕について、問題を解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することにやや課題がある。
- ・〔4(2)〕について、水の状態変化について、概念的に理解することがおおむねできている。
- ・〔4(3)カ〕について、「水は、冷えると0℃で氷に変わる」ことを根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができている。
- ・〔4(3)ク〕について、「水は、温まると体積が増える」ことを根拠に、海面水位が上昇した理由を予想し、表現することができている。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」**

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25psci\\_idea\\_04.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25psci_idea_04.pdf)

○学習したことを、自然の事物・現象に当てはめて捉え直すことができるようにする

上記の指導の充実を図るには、学習内容を他の学習や生活と関連付けることが大切である。

例えば、学習のまとめの際に、学習したことを自然の事物・現象や生活の場面に当てはめて理解を深めたり、役立っていることを捉えたりする活動を設定する。そして、学習したことと、自然の事物・現象との共通点を分類・整理したり、自然の事物・現象と習得した知識を関連付けて説明したりするような学習活動が考えられる。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

○ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いている

〔3(1)〕(府の正答率 77.4%、全国の正答率 70.7%)

▲顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いている

〔3(2)〕(府の正答率 47.9%、全国の正答率 45.6%)

○発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができる

〔3(3)〕(府の正答率 62.6%、全国の正答率 62.0%)

▲レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができる

〔3(4)〕(府の正答率 30.5%、全国の正答率 29.9%)

**解説**

- ・〔3(1)〕について、花のつくりや受粉についての知識が身に付いている。
- ・〔3(2)〕について、顕微鏡を操作し、適切な像にするためにプレパラートを動かすことは分かるが、ピントを合わせる操作の技能が身に付いていない児童が 37.5%いる。
- ・〔3(3)〕について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することは、おおむねできている。
- ・〔3(4)〕について、レタスの種子の発芽の条件について、既習の植物の発芽の条件との差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができていない。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」**

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25psci\\_idea\\_03.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25psci_idea_03.pdf)

○差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目し、問題を見いだすことができるようにする。

上記の指導の充実を図るには、事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが重要である。

指導に当たっては、観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目した問題を見いだす場面を設定することが考えられる。例えば、「発芽するために必要な養分はどこからくるのだろうか」という問題を見だし、インゲンマメの種子が発芽した後の様子を観察する。発芽する前と後のインゲンマメの種子にヨウ素液をつけ、でんぷん反応を確認し、発芽した後の種子からはでんぷん反応がないことから、「インゲンマメが成長するためには、肥料や日光が必要なのだろうか」という問題を見いだすことが考えられる。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

◎赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができる

〔1(1)〕(府の正答率80.1%、全国の正答率79.5%)

▲赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができる

〔1(2)〕(府の正答率59.0%、全国の正答率60.5%)

○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができる

〔1(3)〕(府の正答率78.7%、全国の正答率77.8%)

○水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している

**解説**

- ・〔1(1)〕について、変える条件と変えない条件を整理しながら、赤玉土の量と水の量を正しく設定した解決の方法を発想し、表現することができる。
- ・〔1(2)〕について、水のしみ込み方の違いについて【結果】を基に考察し、【問題に対するまとめ】の理由を適切に表現することができる。
- ・〔1(3)〕について、水のしみ込み方の違いについて【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができる。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所 報告書(令和7年度)**

**○観察、実験の結果を基に、問題に正対した自分の考えを表現する**

上記の指導の充実を図るには、結果を整理し、具体的な数値を基に、より妥当な考えをつくりだし、表現することが重要である。指導に当たっては、結果を基に考察する際に、表やグラフなどに整理する活動を設けることで、結果を比較したり、複数の結果から多面的に考えたりして、自分の考えを表現できるように指導することが大切である。

また、根拠となる結果を具体的な数値などを用いて表現することで、より妥当な考えをつくりだすことができるように指導していくことも大切である。

## 6 中学校理科の授業改善のポイント

### 中学校 エネルギー

問題〔1(1)〕〔1(2)〕〔5(1)〕〔5(2)〕〔5(3)〕

#### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いている

〔1(1)〕(府の正答率 51.3%、全国の正答率 51.9%)

▲【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できる

〔2(1)〕(府の正答率 11.4%、全国の正答率 14.0%)

◎ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いている

〔2(2)〕(府の正答率 94.9%、全国の正答率 94.6%)

▲仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができる

〔3(1)〕(府の正答率 36.0%、全国の正答率 34.9%)

◎身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いている

〔3(2)〕(府の正答率 88.8%、全国の正答率 85.2%)

#### 解説

- 〔1(1)〕について、直列回路と並列回路における回路全体の抵抗と熱量に関する知識を身に付けることに課題がある。
- 〔2(1)〕について、【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題がある。
- 〔2(2)〕について、考察の妥当性を高めるために、収集する資料や情報の信頼性に関する知識及び技能を身に付けることができている。
- 〔3(1)〕について、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することに課題がある。
- 〔3(2)〕について、電気回路における抵抗の働きについての知識が概念として身に付いている。

### **<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」**

URL : [https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/report/data/22msci\\_idea\\_05.pdf#page=3](https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/report/data/22msci_idea_05.pdf#page=3)

#### **○考察の妥当性を高めるために、科学的な探究の見通しをもつ**

考察の妥当性を高めるために、計画した観察、実験の結果から何が分かればよいのかをはっきりさせてから観察、実験を行うなどして、科学的な探究の過程を振り返り、探究の見通しをもたせることが大切である。科学的な探究の見通しをもつために、すぐに観察、実験を行うのではなく、個人やグループなどで「観察、実験の結果から何が分かればよいのか」について、確認して共有するなどの学習場面を設定することが考えられる。

URL : [https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/report/data/22msci\\_idea\\_05.pdf#page=9](https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/report/data/22msci_idea_05.pdf#page=9)

#### **○実験の結果を分析して解釈し、関係性を見いだすために視覚化を行う**

結果をまとめ、関係性を見いだすために表やグラフなどを用いて視覚化を行うことが大切である。表で示すのか、グラフで示すのか、両方用いて示すのかなど、どの方法で表現すれば良いかを議論することも大切である。

## 中学校 粒子

### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

- ▲身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できる  
〔1(2)〕(府の正答率 39.8%、全国の正答率 46.2%)
- ▲塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いている  
〔1(5)〕(府の正答率 42.0%、全国の正答率 44.9%)
- 科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できる  
〔1(6)〕(府の正答率 77.9%、全国の正答率 79.4%)
- ▲ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できる  
〔4(1)〕(府の正答率 45.8%、全国の正答率 50.4%)
- ◎火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いている  
〔4(2)〕(府の正答率 92.6%、全国の正答率 92.8%)
- ◎加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いている  
〔5(1)〕(府の正答率 91.4%、全国の正答率 93.0%)
- ▲化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができる  
〔5(2)〕(府の正答率 29.4%、全国の正答率 35.6%)
- ▲分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いている  
〔7(2)〕(府の正答率 45.9%、全国の正答率 51.6%)

### 解説

- ・〔1(2)〕について、両方の性質に着目しようとしているが、「成分」、「特徴」、「違い」などを疑問としてどのように科学的な探究として解決したいのかが欠如している。
- ・〔1(5)〕について、元素を記号で書き表すことに課題がある。
- ・〔1(6)〕について、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現することができている。
- ・〔4(1)〕について、実験の様子と密度に関する知識及び技能を関連付けて、気体の密度の大小関係を分析して解釈することに課題がある。
- ・〔4(2)〕について、気体の性質に関する知識が概念として身に付いている。
- ・〔5(1)〕について、火傷に対する応急処置に関する技能が身に付いている。
- ・〔5(2)〕について、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題がある
- ・〔7(2)〕について、化学変化における「分解」の意味を正しく理解できておらず、化学変化に関する知識と「生命」を柱とする領域の事象を関連付けて考えることに課題のある生徒が33.1%いる

### ＜授業改善のポイント＞ 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」

#### ○探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち探究を深めることができるようにする

URL：[https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25msci\\_idea\\_01.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25msci_idea_01.pdf)

自然の事物・現象を主体的に探究する活動を促す上で、探究の過程を振り返って新たな疑問をもち、探究を深めるようにすることは大切である。各授業の終わりに探究の過程を振り返ることも大切であるが、単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに、記録した新たな疑問を振り返り、新たな探究を計画することによって主体的に探究する活動を促すことも考えられる。

#### ○観察、実験の様子と気体の性質の知識及び技能を関連付けて、分析して解釈できるようにする

URL：[https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25msci\\_idea\\_04.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25msci_idea_04.pdf)

科学的に探究する上で、観察、実験の様子と理科で学習した知識及び技能を関連付けて、分析して解釈できるようにすることが大切である。観察、実験を行い、得られた結果が気体の性質の知識及び技能と関連していることに気付くようにすることが考えられる。また、観察、実験を通して身近な気体の性質を考えるきっかけとすることも重要である。

#### ○化学変化を質的・実体的な視点で捉えることができるようにする

URL：[https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25msci\\_idea\\_05.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25msci_idea_05.pdf)

化学変化を原子や分子のモデルで表すなど、自然の事物・現象を質的・実体的な視点で捉えることは大切である。化学変化を原子や分子のモデルを用いて考察させるなど、微視的に事象を捉えるようにすることが考えられる。微視的に事象を捉える際には、1人1台端末を使用して原子や分子のモデルを動かし、生徒が試行錯誤できるようにすることが考えられる。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

▲水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いている

〔1(4)〕(府の正答率 30.7%、全国の正答率 29.7%)

○スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いている

〔6(1)〕(府の正答率 70.0%、全国の正答率 65.9%)

▲スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できる

〔6(2)〕(府の正答率 38.6%、全国の正答率 41.9%)

▲小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができる

〔7(1)〕(府の正答率 32.0%、全国の正答率 34.8%)

▲分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いている

〔7(2)〕(府の正答率 45.9%、全国の正答率 51.6%)

**解説**

- ・〔1(4)〕について、呼吸を行う生物の共通点として「動く生物」と誤って捉えている生徒が58.6%いる。
- ・〔6(1)〕について、スケッチに関する知識及び技能が、おおむね身に付いている。
- ・〔6(2)〕について、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現することに課題がある。
- ・〔7(1)〕について、小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する物質を体内に取り入れるための体の構造として、「表面積を広くする」と捉えることに課題がある。
- ・〔7(2)〕について、化学変化の分解の知識を概念として身に付けることに課題がある。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」**

○単子葉類と双子葉類の葉・茎・根の外部形態と内部形態の特徴を、関連付けて捉えることができるようにする

URL : [https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25msci\\_idea\\_06.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25msci_idea_06.pdf)

身近な植物の外部形態や内部形態の観察を行い、観察記録などに基づき、共通点や相違点があることを見いだして、植物の体の基本的なつくりを理解することが大切である。花のつくりや葉脈の形状、茎のつくり、根のつくり等の共通点や相違点に基づいた分類表などを作り、植物の体のつくりを理解することが考えられる。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

▲露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できる

〔1(3)〕(府の正答率 36.1%、全国の正答率 36.2%)

▲地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できる

〔8(1)〕(府の正答率 40.5%、全国の正答率 42.2%)

▲大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できる

〔8(2)〕(府の正答率 17.9%、全国の正答率 18.1%)

▲気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できる

〔9(1)〕(府の正答率 29.7%、全国の正答率 31.8%)

▲気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いている

〔9(2)〕(府の正答率 54.3%、全国の正答率 58.1%)

**解説**

- 〔1(3)〕について、地層を構成する粒の大きさと水のしみ込み方を関連付けて分析して解釈することに課題がある。
- 〔8(1)〕について、時間的・空間的な見方を働かせて、過去に起きたと考えられる事象を推論することに課題があり、引き続き指導の充実が求められる。
- 〔8(2)〕について、時間的・空間的な見方を働かせて、ボーリング調査の結果を基に地層の広がりを検討して表現することに引き続き課題がある。
- 〔9(1)〕について、予想が反映された振り返りについて考える場面で、温めた空き缶を冷たい水に入れて様子を観察する動画の事象のみに着目している生徒が 54.6%いる。
- 〔9(2)〕について、気圧に関する身近な事象について、知識を概念として身に付けることに課題がある。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」**

○地層の傾きを主として時間的・空間的な視点で捉え、地層の広がりを検討して表現できるようにする

URL：[https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25msci\\_idea\\_08.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25msci_idea_08.pdf)

大地の成り立ちや変化を理解する上で、ボーリング調査の結果から、科学的な根拠を基に地層の広がりを検討して表現できるようにすることが大切である。離れた地点の幾つかの地層を比較したり、地層モデルを活用したりするなど、地層の広がり方や傾きを空間的な視点で捉える学習場面を設定することが考えられる。

○日常生活における現象を気圧に関する知識と関連付けて説明できるようにする

URL：[https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25msci\\_idea\\_09.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25msci_idea_09.pdf)

気圧に関する身近な事象を、身に付けた知識及び技能と関連付けて捉えることが大切である。生徒が気圧を実感できるよう実験等を行い、様々な事象の中から気圧が関係するものを選択したり、気圧を利用している身近な事象を説明したりする学習場面を設定することが考えられる。

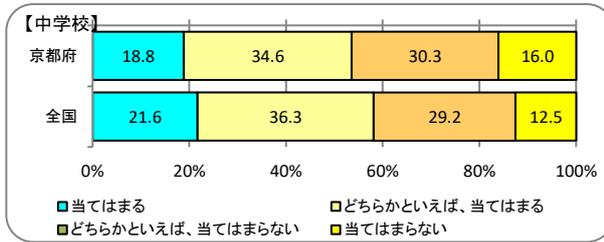
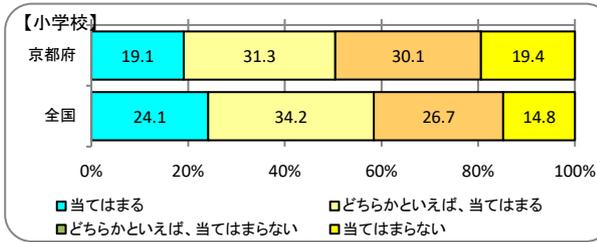
## V 質問調査結果

# 1 児童生徒質問の調査結果について

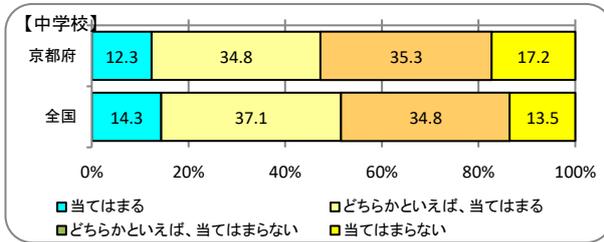
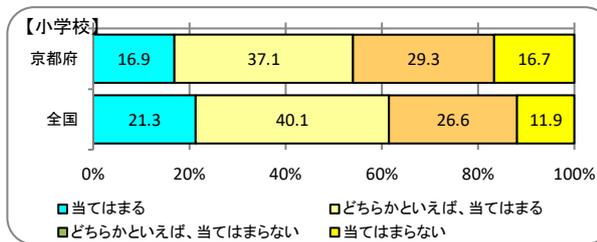
## (1) 国語への関心等

京都府のデータは京都市を除いています

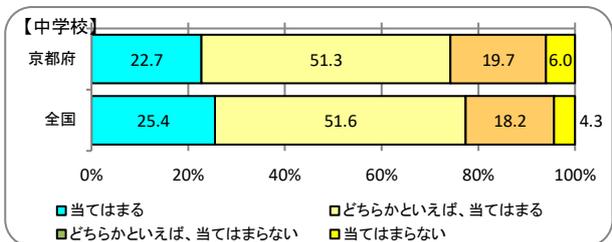
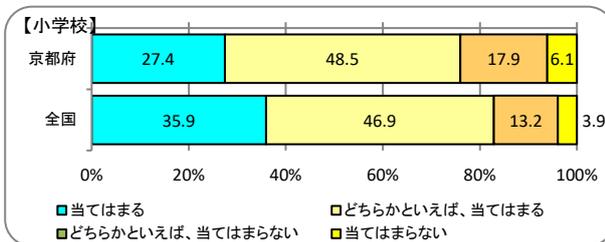
Q45：国語の勉強は好きですか



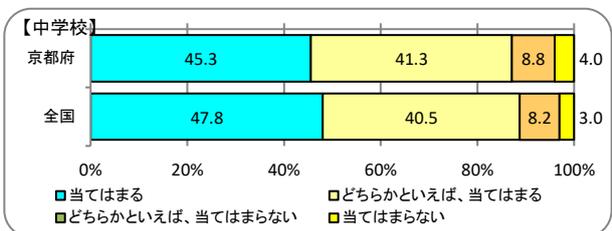
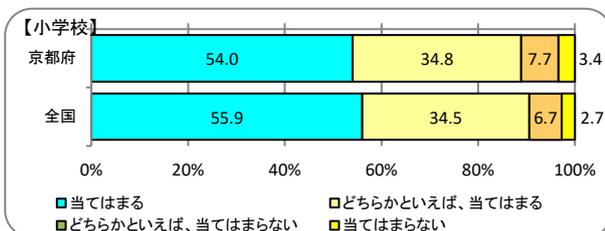
Q44：国語の勉強は得意ですか



Q46：国語の授業の内容はよくわかりますか



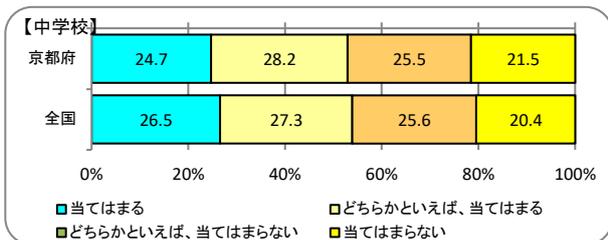
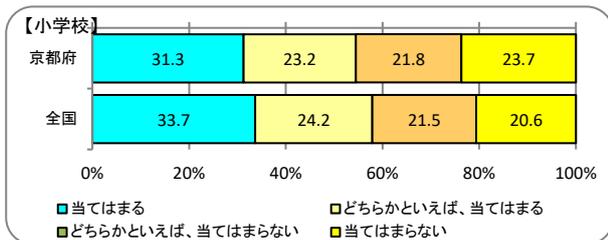
Q47：国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



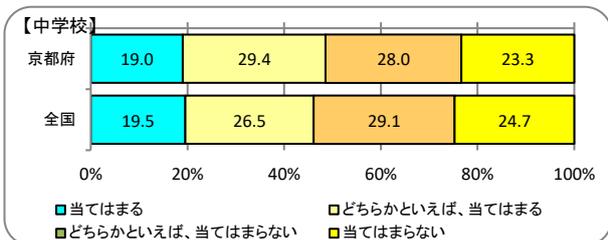
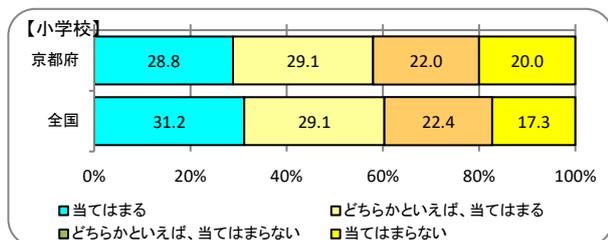
## (2) 算数【数学】への関心等

京都府のデータは京都市を除いています

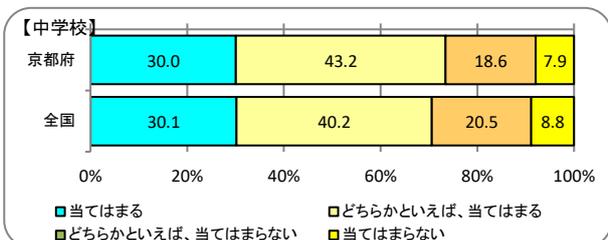
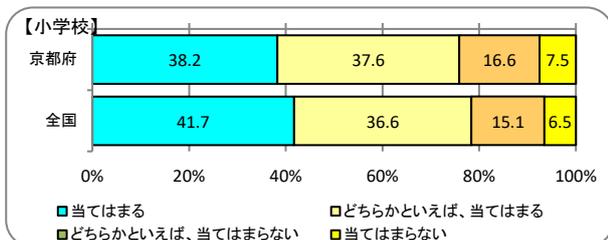
Q53：算数【数学】の勉強は好きですか



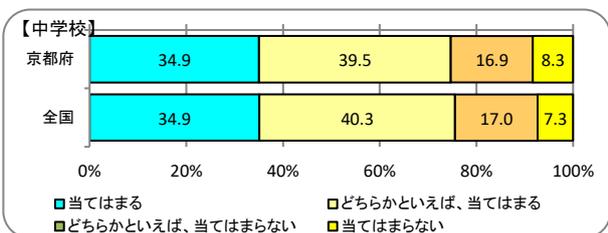
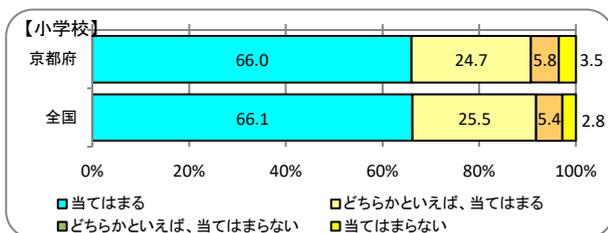
Q52：算数【数学】の勉強は得意ですか



Q54：算数【数学】の授業の内容はよくわかりますか



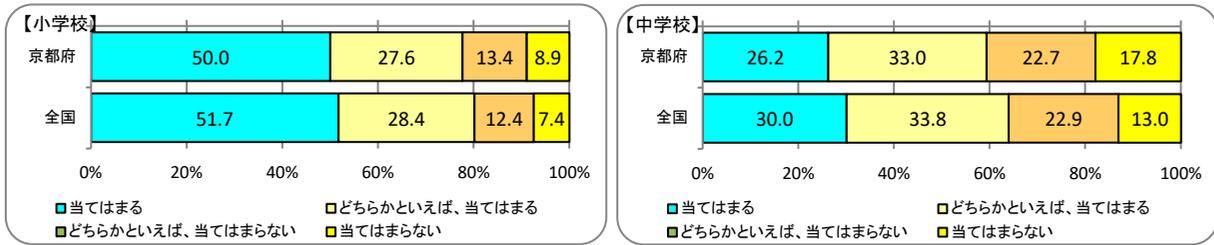
Q55：算数【数学】の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



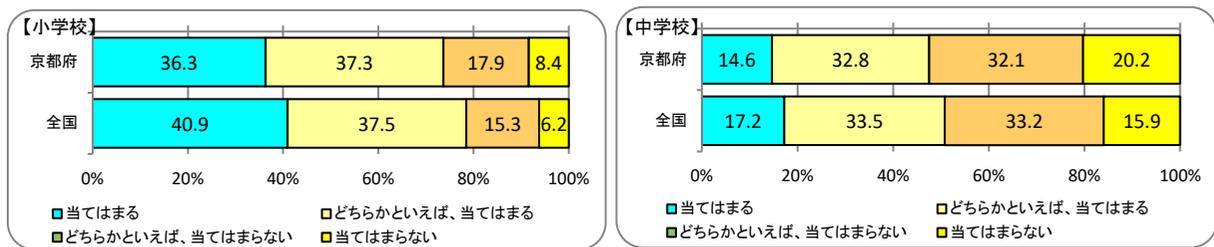
### (3) 理科への関心等

京都府のデータは京都市を除いています

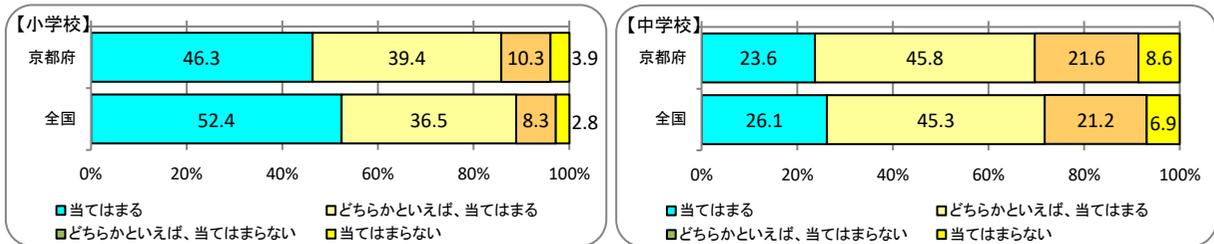
Q61：理科の勉強は好きですか



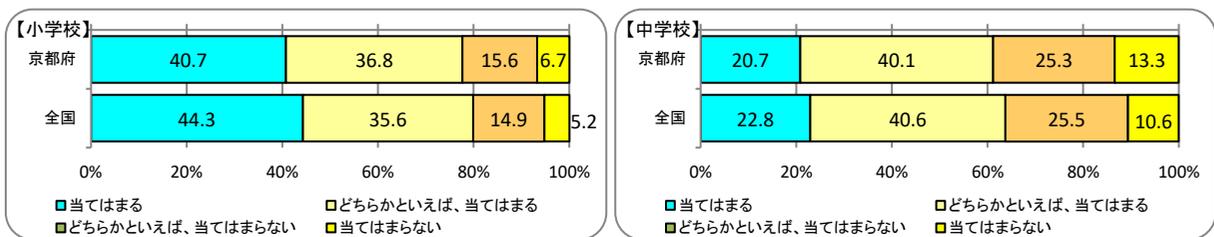
Q60：理科の勉強は得意ですか



Q62：理科の授業の内容はよくわかりますか



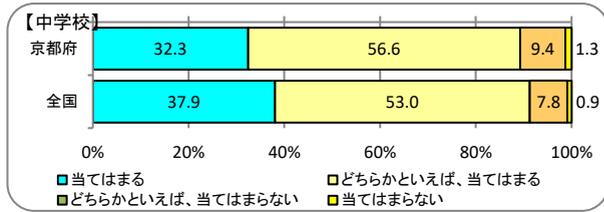
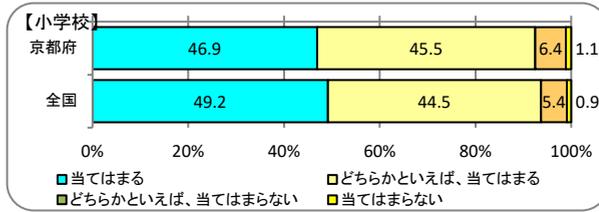
Q63：理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



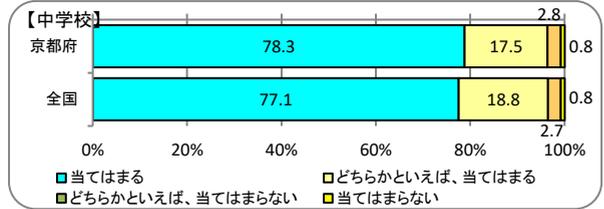
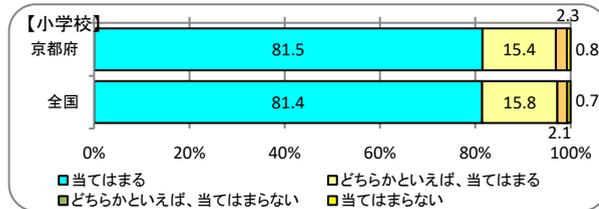
## (4) 規範意識

京都府のデータは京都市を除いています

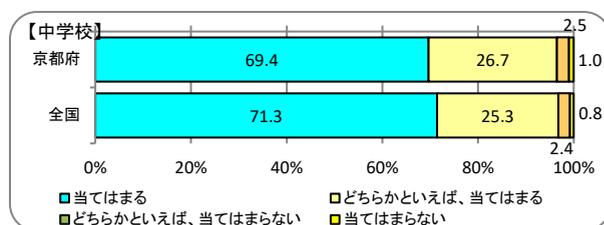
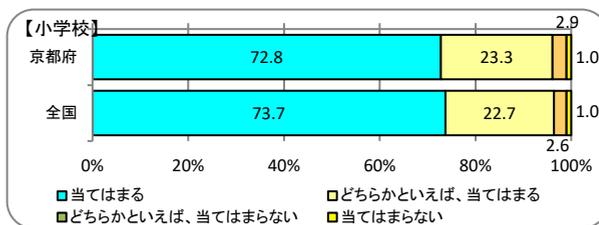
Q8：人が困っているときは、進んで助けていますか



Q9：いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



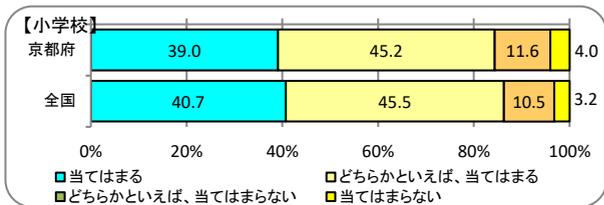
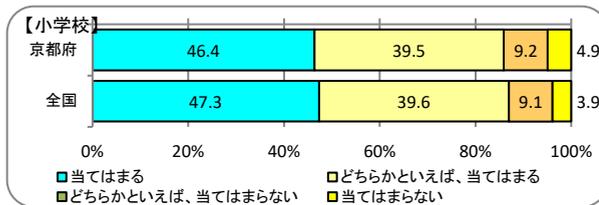
Q11：人の役に立つ人間になりたいと思いますか



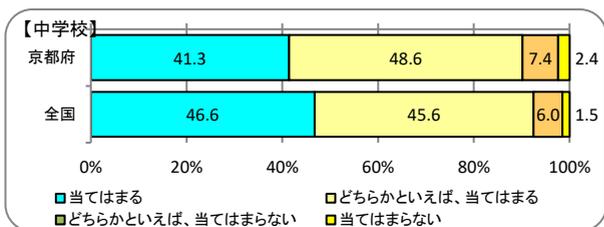
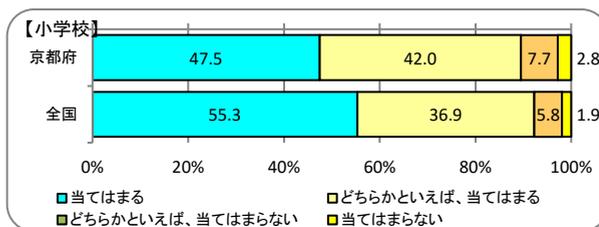
## (5) 自己有用感

京都府のデータは京都市を除いています

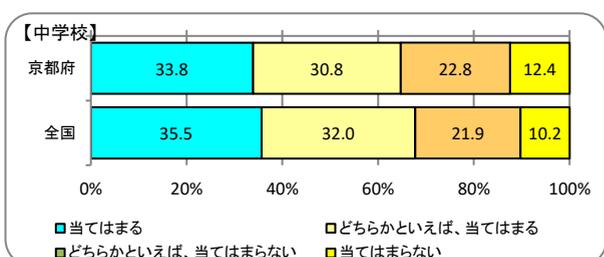
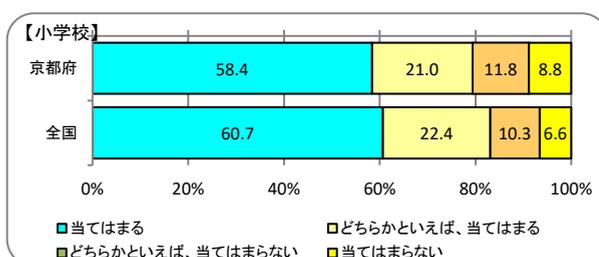
Q5：自分には、よいところがあると思いますか



Q6：先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



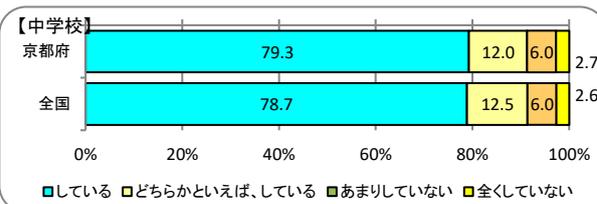
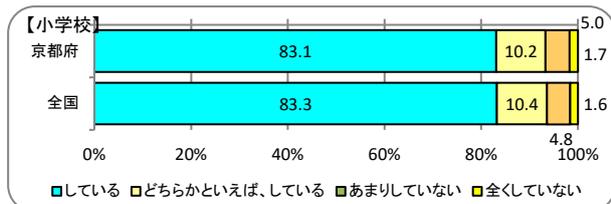
Q7：将来の夢や目標を持っていますか



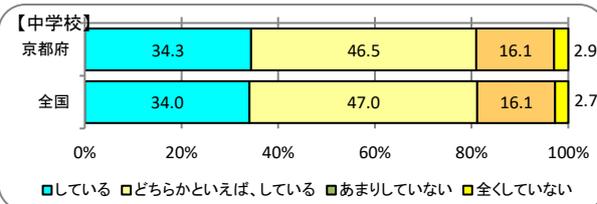
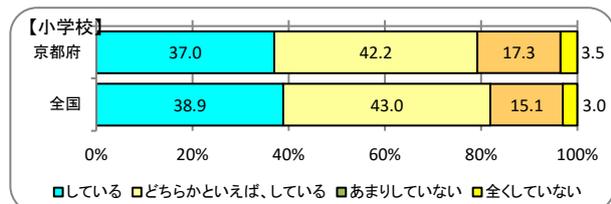
# (6)生活習慣・学習習慣

京都府のデータは京都市を除いています

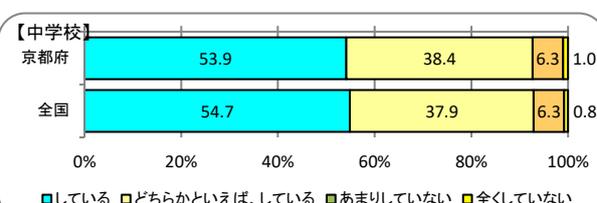
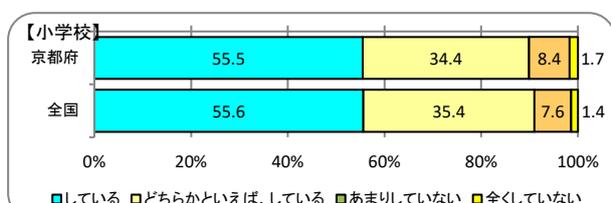
Q1：朝食を毎日食べていますか



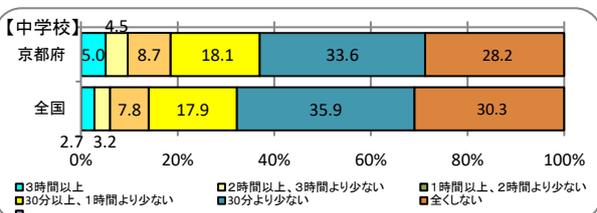
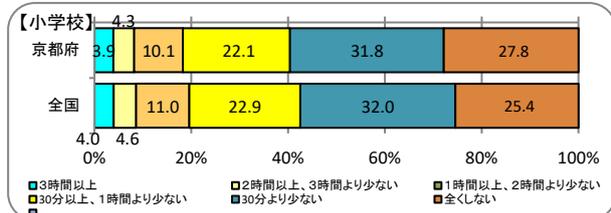
Q2：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



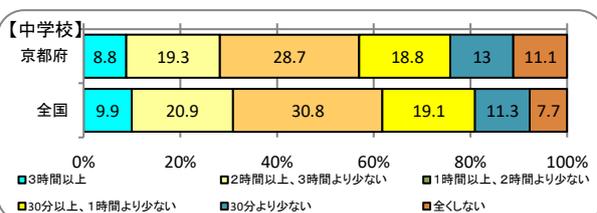
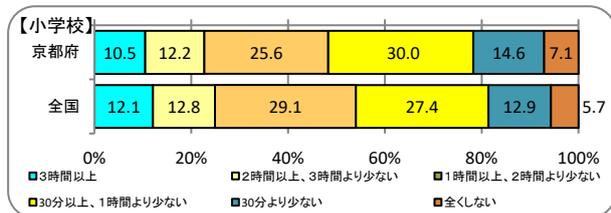
Q3：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



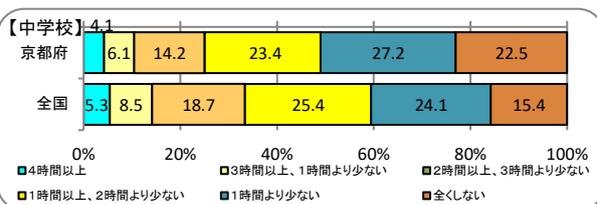
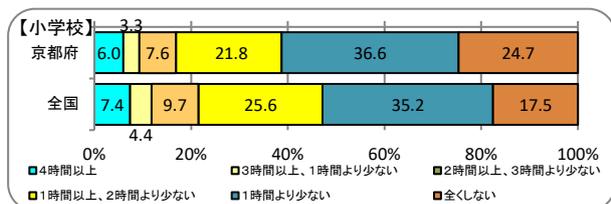
Q18：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）



Q17：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



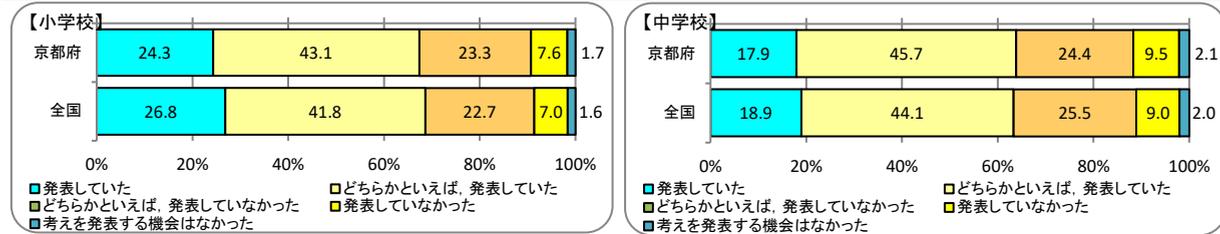
Q19：土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



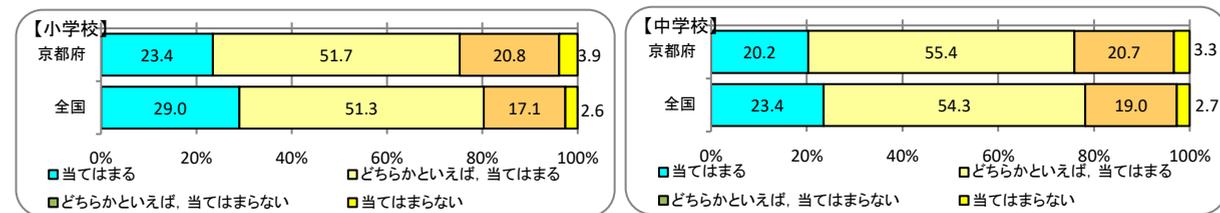
# (7) その他

京都府のデータは京都市を除いています

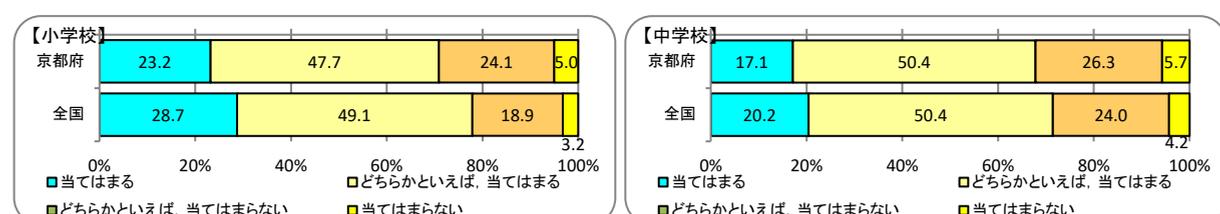
Q31：5年生までに【1,2年生のときに】受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



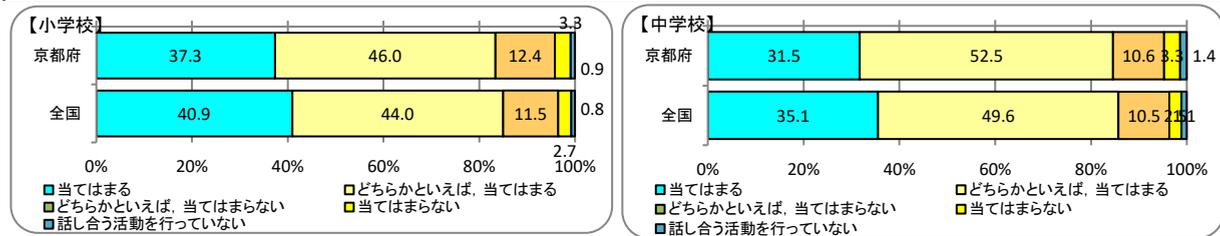
Q32：5年生までに【1,2年生のときに】受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



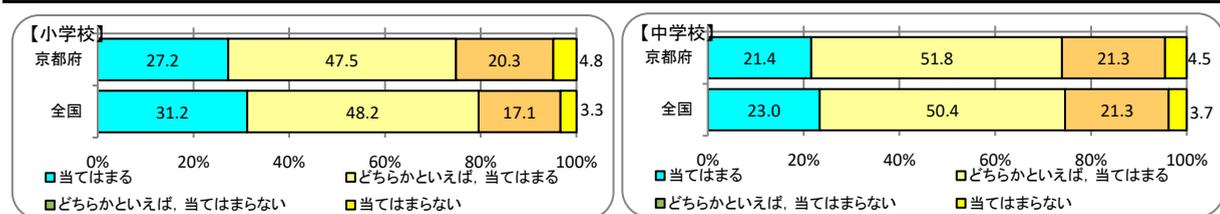
Q33：5年生までに【1,2年生のときに】受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



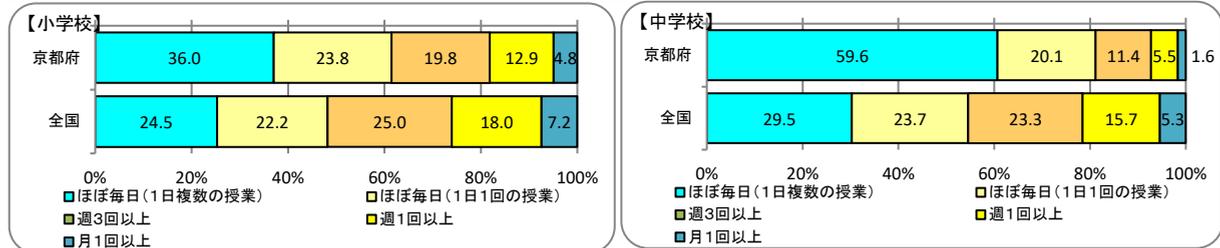
Q35：学級の友達【生徒】との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか



Q36：学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



Q28：5年生までに【1,2年生のときに】受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

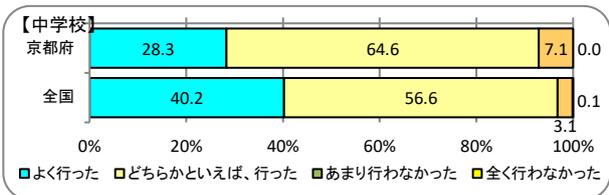
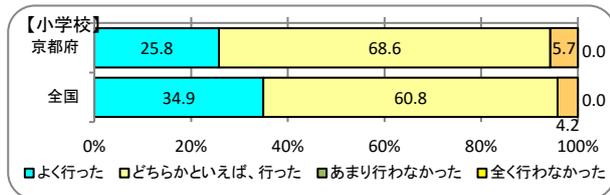


## 2 学校質問の調査結果について

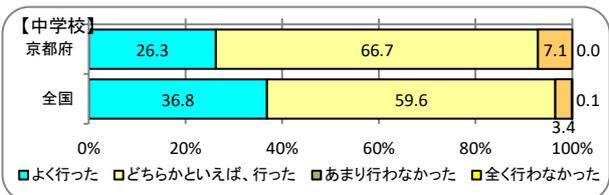
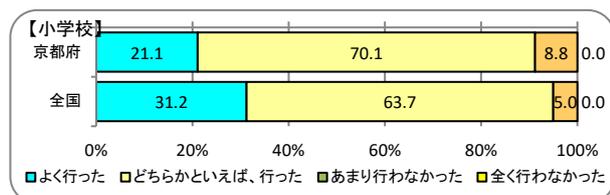
### (1) 国語科の指導方法

京都府のデータは京都市を除いています

Q41：調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語の授業で、学習状況に即して児童生徒のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行いましたか



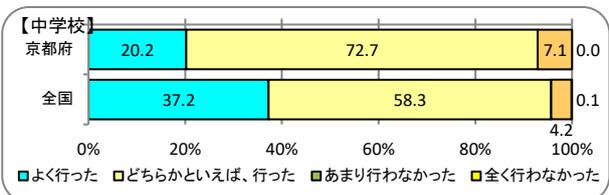
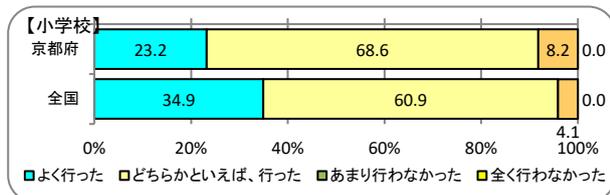
Q42：調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語の授業で、児童生徒に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることを行いましたか



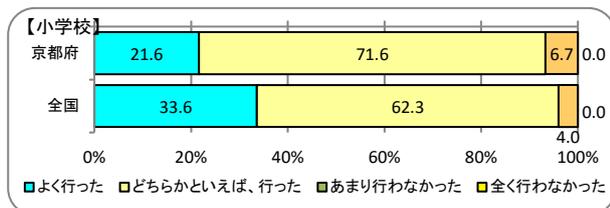
#### 【書くこと】

(小) Q43：調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか

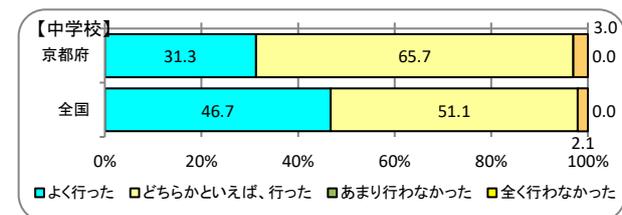
(中) Q44：調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるような指導を行いましたか



【知識及び技能】 (小) Q44：調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる指導を行いましたか



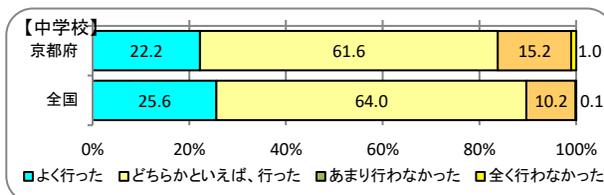
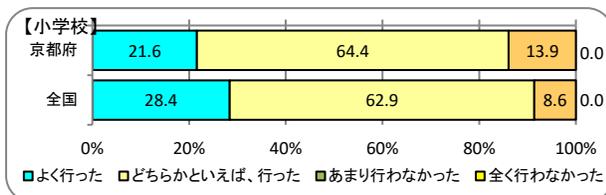
【読むこと】 (中) Q43：調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるような指導を行いましたか



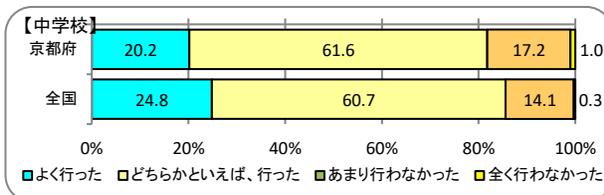
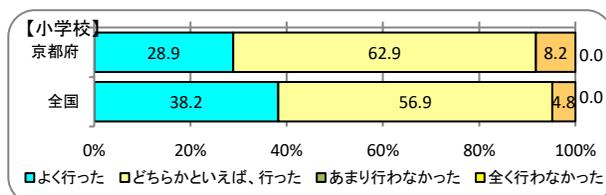
## (2) 算数【数学】科の指導方法

京都府のデータは京都市を除いています

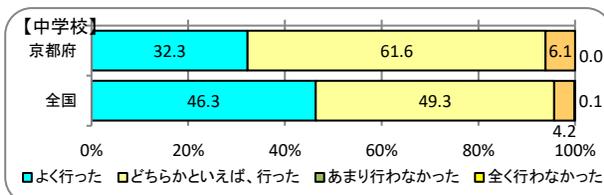
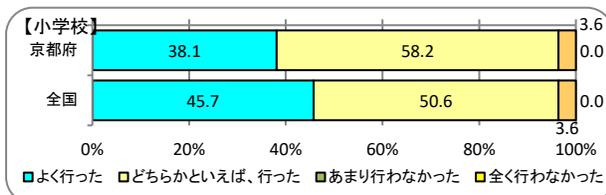
Q45：調査対象学年の児童【生徒】に対する算数【数学】の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか



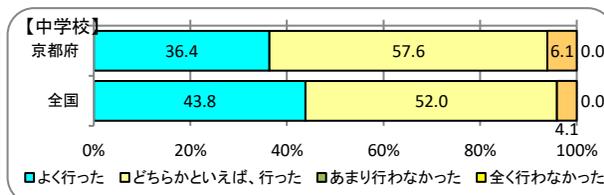
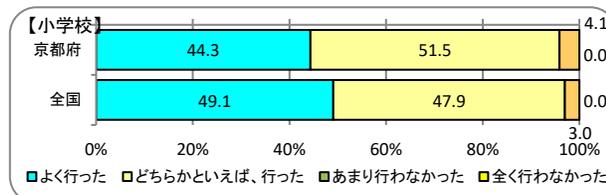
Q46：(小) 調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行いましたか  
(中) 調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか



Q47：調査対象学年の児童【生徒】に対する算数【数学】の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童【生徒】に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか



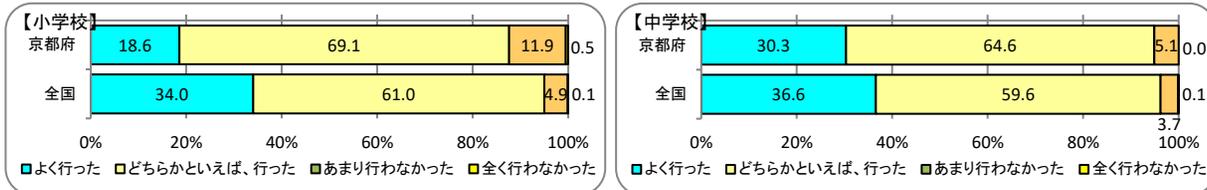
Q48：調査対象学年の児童【生徒】に対する算数【数学】の授業において、前年度までに、授業で、学習上つまずいた児童に対する対応を行っていましたか



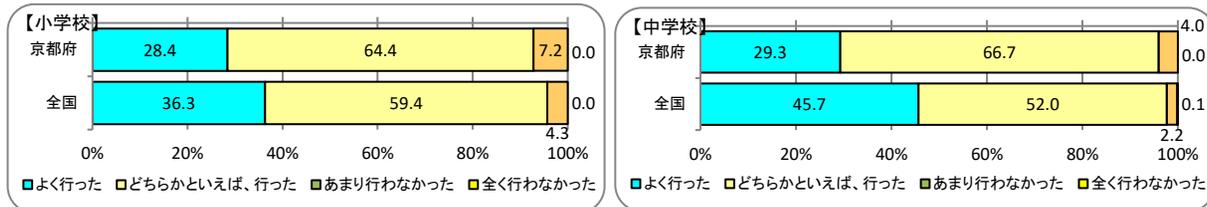
### (3) 理科の指導方法

京都府のデータは京都市を除いています

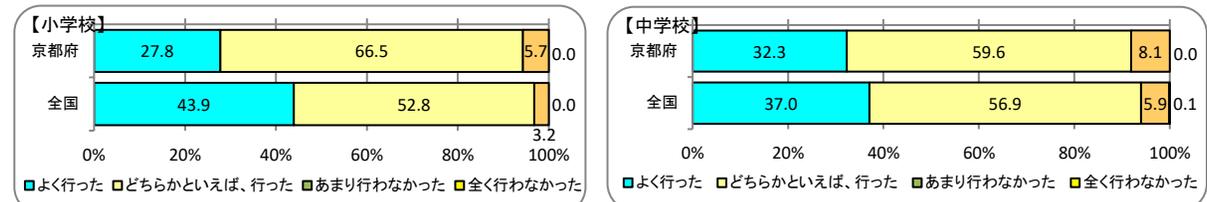
Q49：調査対象学年の児童【生徒】に対する理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか



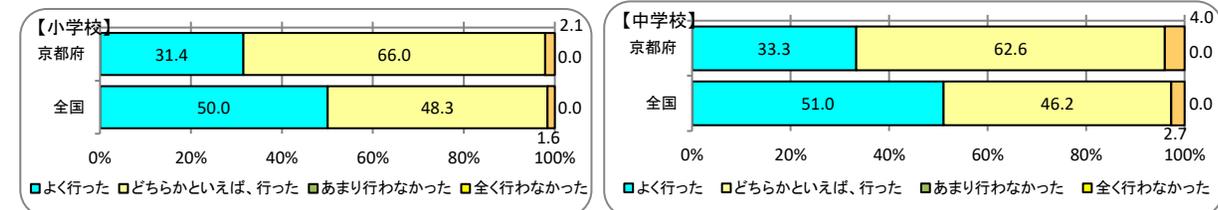
Q50：調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか



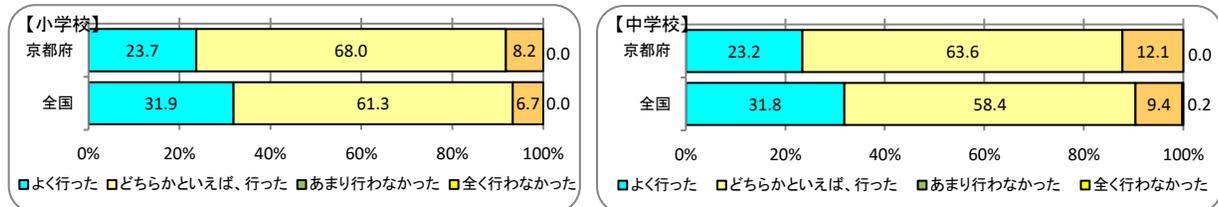
Q51：調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導を行いましたか



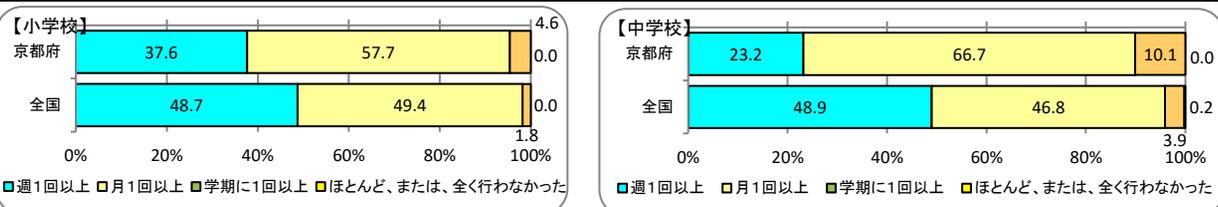
Q52：調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する【分析し解釈する】指導を行いましたか



Q53：調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、課題解決の過程における自分や友だちの学びの深まりや疑問に思ったことを振り返ることができるような指導を行いましたか



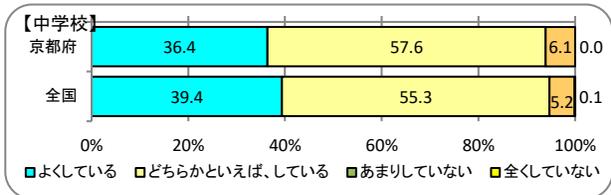
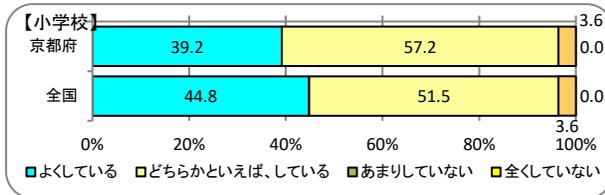
Q54：調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度に、児童が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか



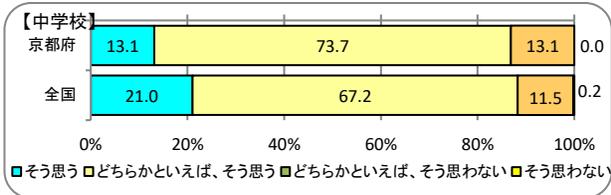
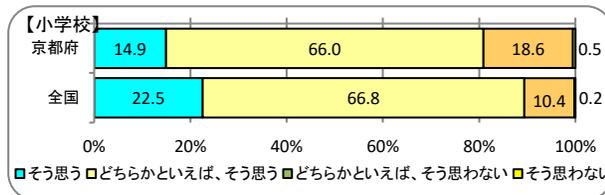
## (4) 授業改善

京都府のデータは京都市を除いています

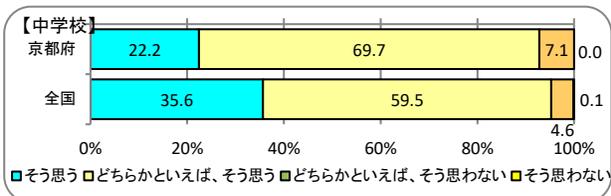
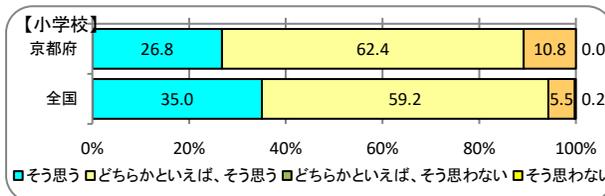
Q17：言語活動について、国語科と要として、各教科の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか



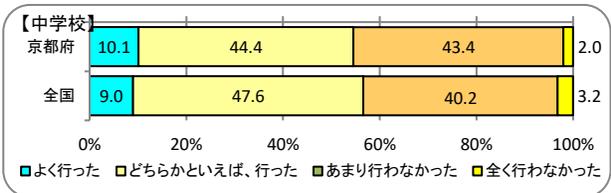
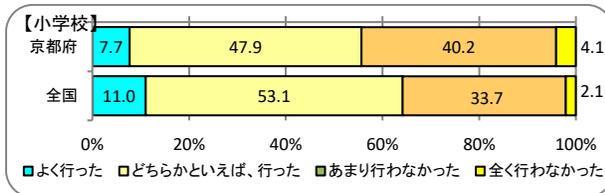
Q25：調査対象学年の児童【生徒】は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



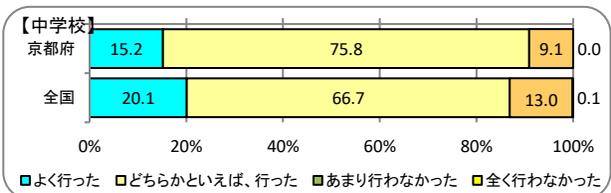
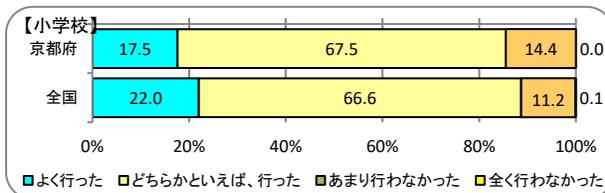
Q28：調査対象学年の児童【生徒】は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを自分の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか



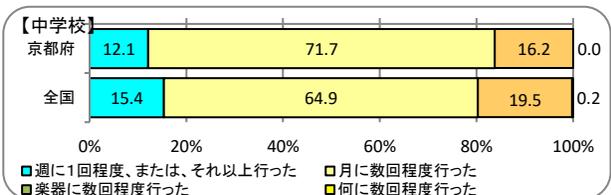
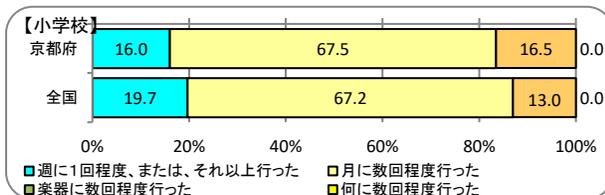
Q29：調査対象学年の児童【生徒】は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか



Q33：調査対象学年の児童【生徒】に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



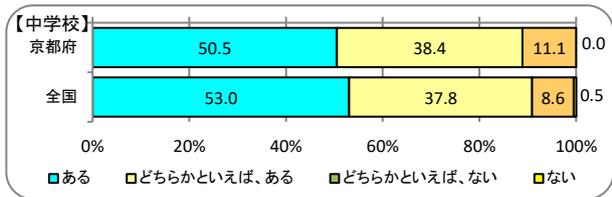
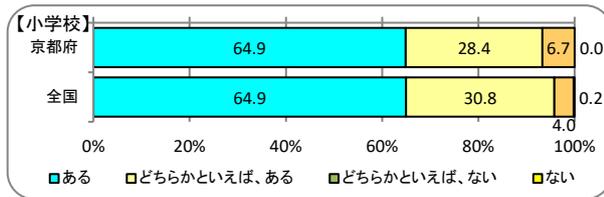
Q34：調査対象学年の児童【生徒】に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



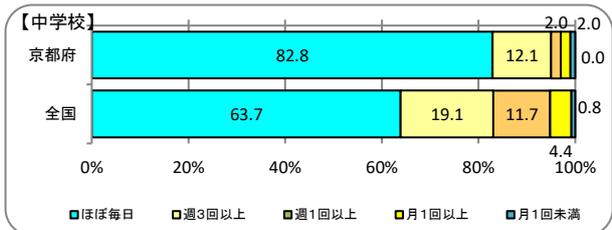
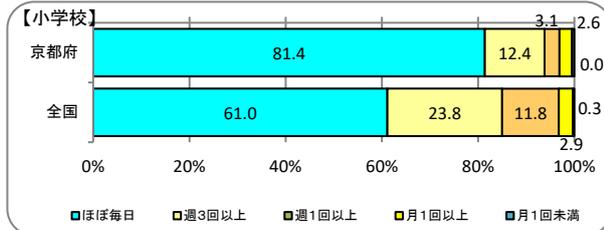
# (5) ICT

京都府のデータは京都市を除いています

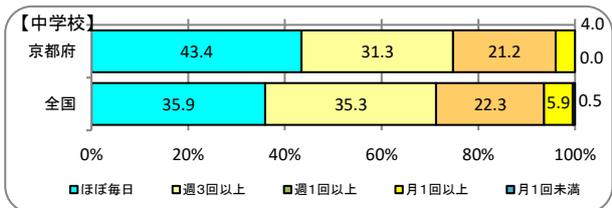
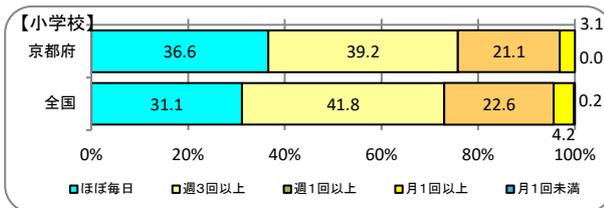
Q56：教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか



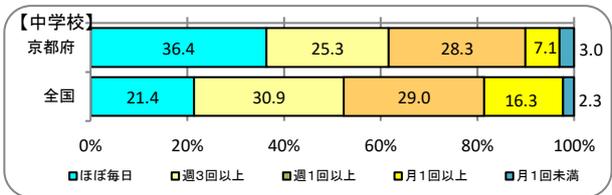
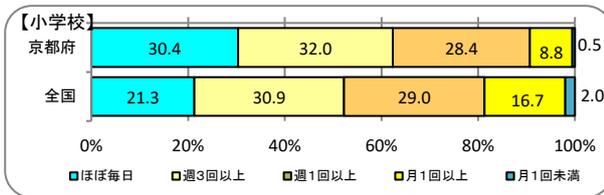
Q58：調査対象学年の児童【生徒】に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



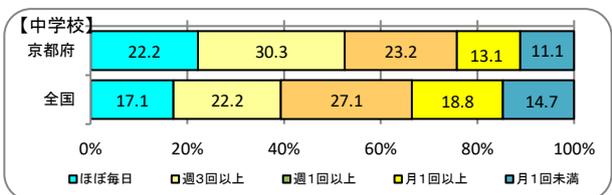
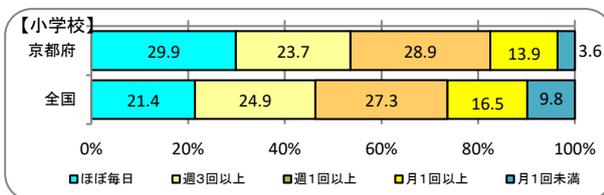
Q59：調査対象学年の児童【生徒】が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童【生徒】一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



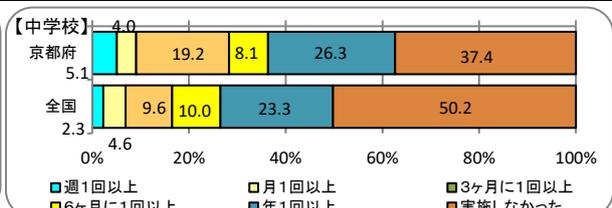
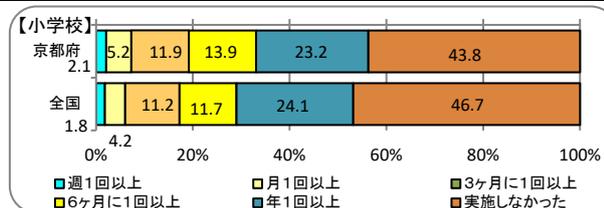
Q60：調査対象学年の児童【生徒】が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童【生徒】一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



Q62：調査対象学年の児童【生徒】同士がやりとりする場面では、児童【生徒】一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



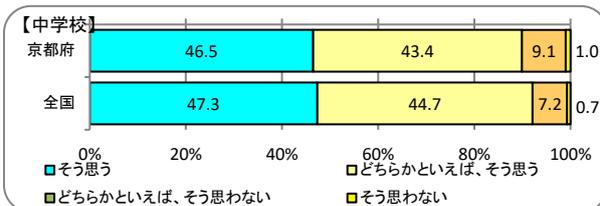
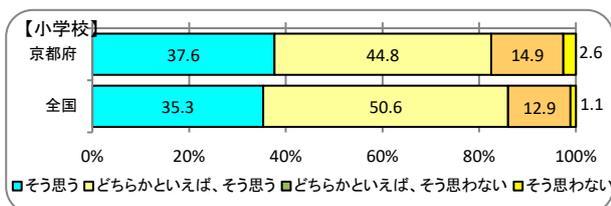
Q64：前年度に、児童【生徒】一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童【生徒】が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか



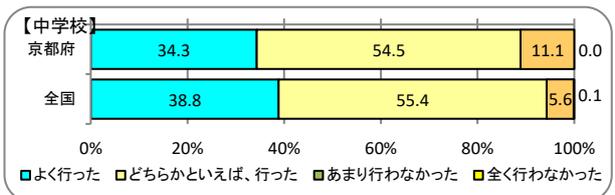
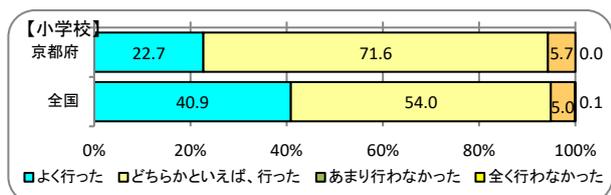
## (6) 生徒指導

京都府のデータは京都市を除いています

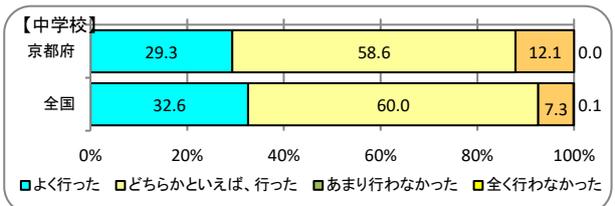
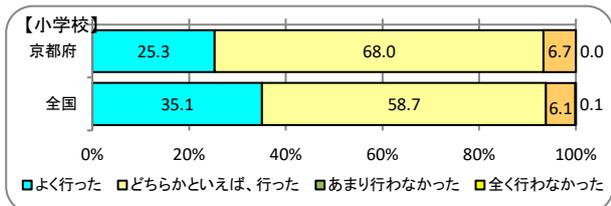
Q8：調査対象学年の児童【生徒】は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



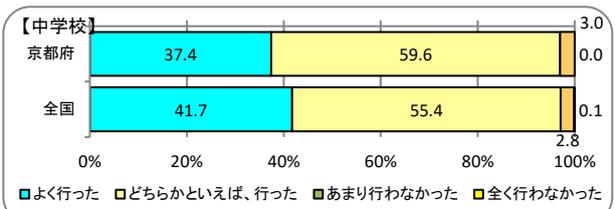
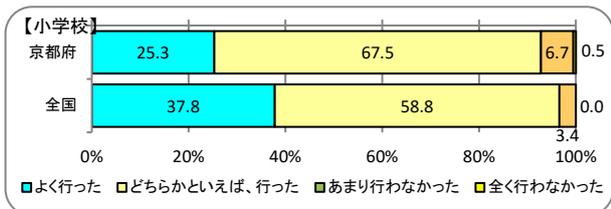
Q37：調査対象学年の児童【生徒】に対して、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか



Q38：調査対象学年の児童【生徒】に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか



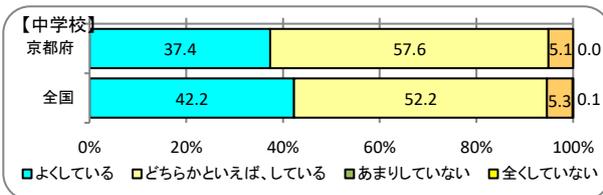
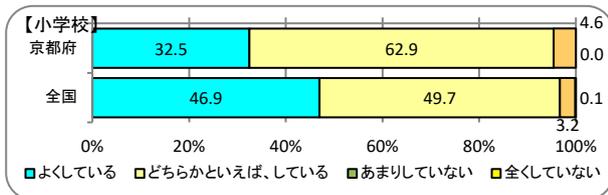
Q39：調査対象学年の児童【生徒】に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか



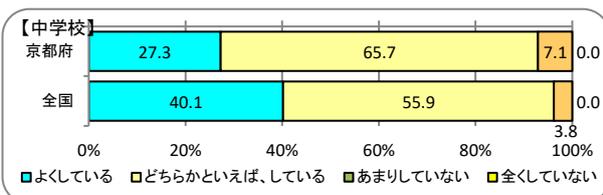
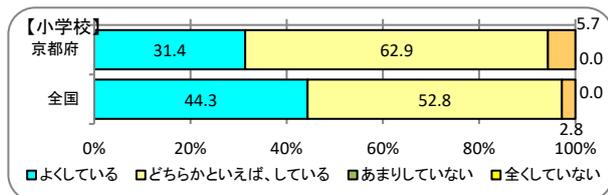
## (7) 学校運営

京都府のデータは京都市を除いています

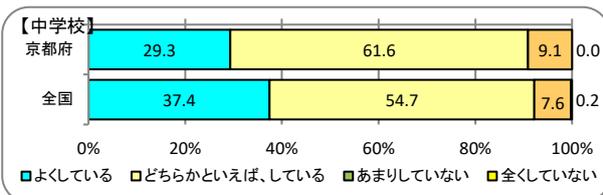
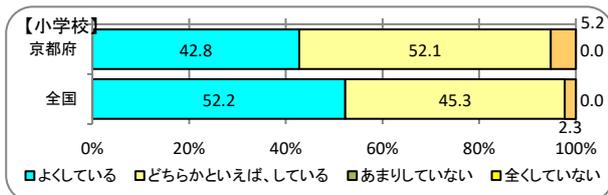
Q14：教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか



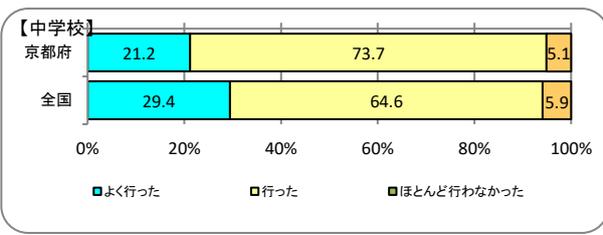
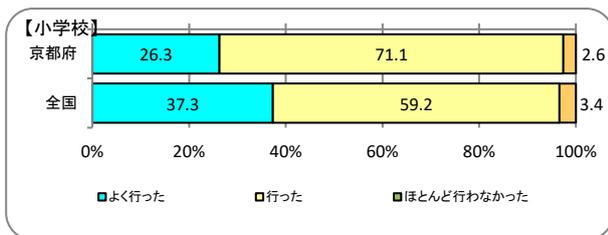
Q15：児童【生徒】の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



Q16：指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか



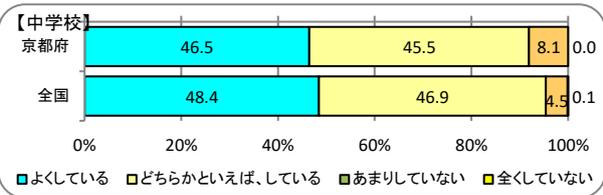
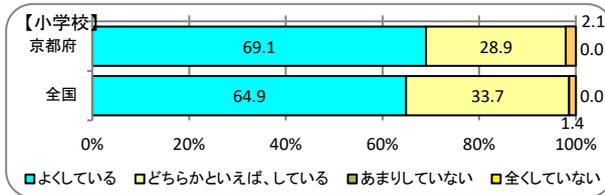
Q83：令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



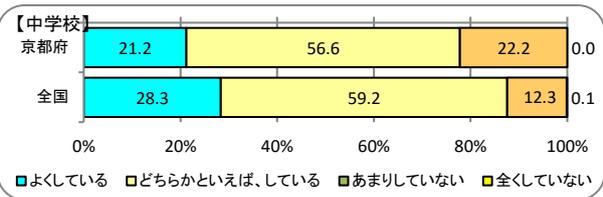
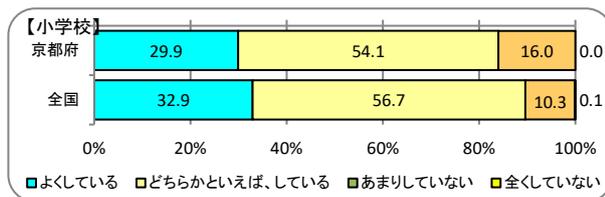
## (8) 教職員の資質能力の向上

京都府のデータは京都市を除いています

Q18：授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

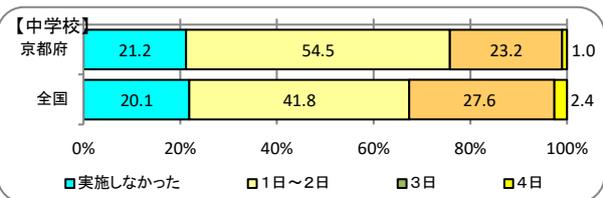
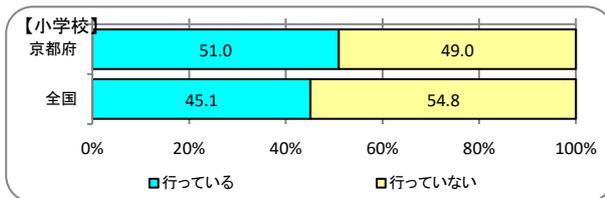


Q19：個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）



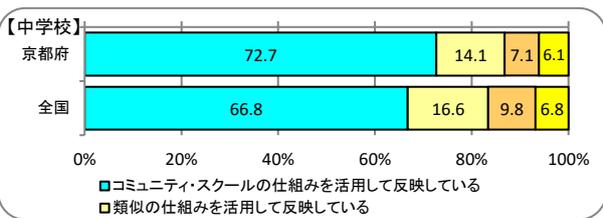
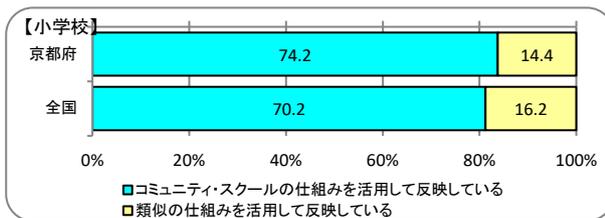
(小)Q73：(小) 職場見学を行っていますか

(中)Q73：(中) 調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか

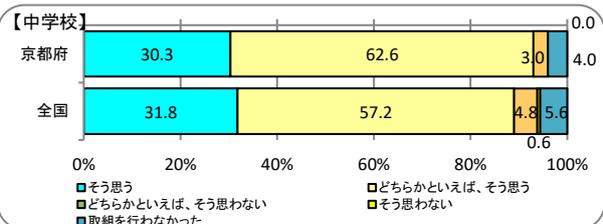
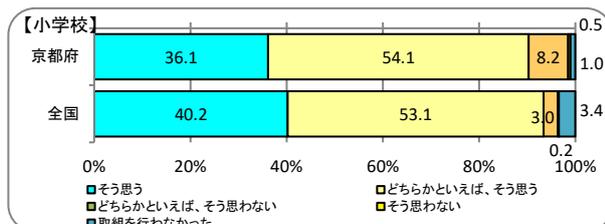


## (9) 家庭や地域との連携等

Q75：コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映していますか



Q77：コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか



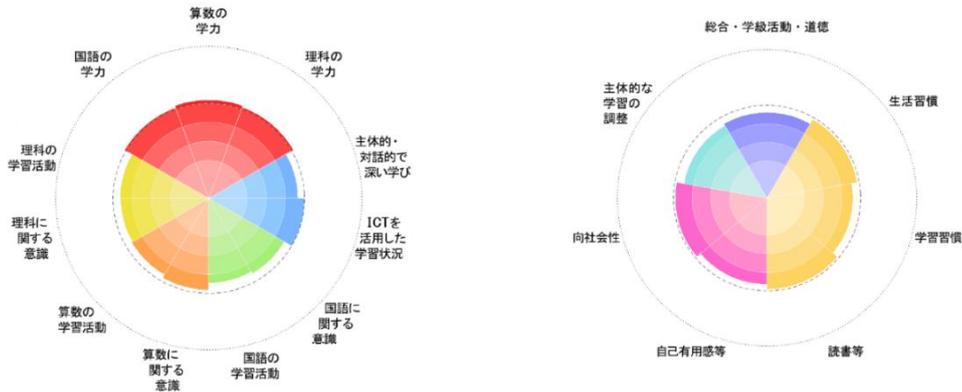
## VI 京都府の結果チャート

# 京都府の結果チャートについて

外側から2つ目の同心円（点線）が全国平均を表し、この線よりも外側にあるものが京都府の強み、内側にあるものが京都府の弱みであることを表すチャート図となっています。

各学校の結果にも学校ごとの結果チャートが掲載されているので、学校の現状が分かります。

## 【小学校】結果チャート（全国基準）



<令和7年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号
1	国語の学力	
2	算数の学力	
3	理科の学力	
4	主体的・対話的で深い学び	(31)~(35)(37)(39)
5	ICTを活用した学習状況	(28)(29)
6	国語に関する意識	(44)(45)(47)
7	国語の学習活動	(46)(48)~(51)
8	算数に関する意識	(52)(53)(55)(56)
9	算数の学習活動	(54)(57)~(59)
10	理科に関する意識	(60)(61)(63)~(65)
11	理科の学習活動	(62)(66)~(70)

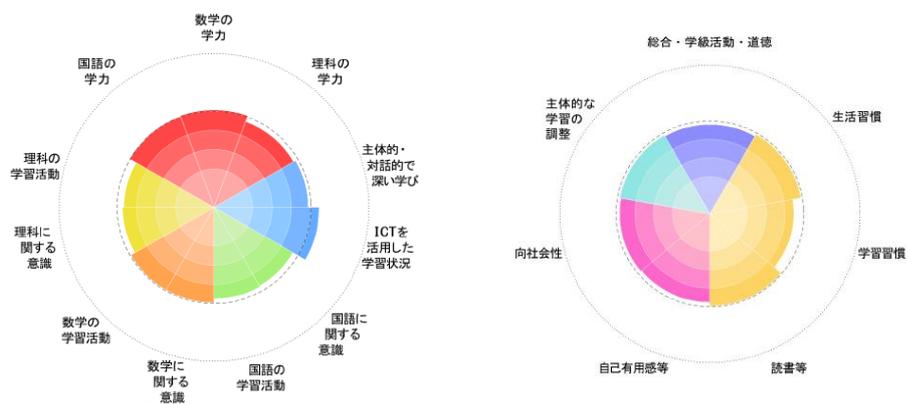
※領域番号1~3については、各教科の全国平均正答率を基準として比較したものである。  
※領域番号4~11については、「小学校児童質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択別別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和7年度その他の学力・学習状況(学習習慣、自己有用感等)の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号
12	総合・学級活動・道徳	(40)~(43)
13	生活習慣	(1)~(3)
14	学習習慣	(17)(19)
15	読書等	(21)~(24)
16	自己有用感等	(5)(6)(10)(12)(14)(15)
17	向社会性	(8)(9)(11)(27)
18	主体的な学習の調整	(16)(36)

※領域番号12~18については、「小学校児童質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択別別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

## 【中学校】結果チャート（全国基準）



<令和7年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問 対応領域・質問番号
1	国語の学力	
2	数学の学力	
3	理科の学力	
4	主体的・対話的で深い学び	(31)~(35)(37)(39)
5	ICTを活用した学習状況	(28)(29)
6	国語に関する意識	(44)(45)(47)
7	国語の学習活動	(46)(48)~(51)
8	数学に関する意識	(52)(53)(55)(56)
9	数学の学習活動	(54)(57)~(59)
10	理科に関する意識	(60)(61)(63)~(66)
11	理科の学習活動	(62)(67)~(70)

※領域番号1~2については、各教科の全国平均正答率を、領域番号3については全国平均IRTスコアを基準として比較したものである。  
※領域番号4~11については、「中学校生徒質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択別別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和7年度その他の学力・学習状況(学習習慣、自己有用感等)の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問 対応領域・質問番号
12	総合・学級活動・道徳	(40)~(43)
13	生活習慣	(1)~(3)
14	学習習慣	(17)(19)
15	読書等	(21)~(24)
16	自己有用感等	(5)(6)(10)(12)(14)(15)
17	向社会性	(8)(9)(11)(27)
18	主体的な学習の調整	(16)(36)

※領域番号12~18については、「中学校生徒質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択別別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

## VII 調査から見えてくる課題と成果

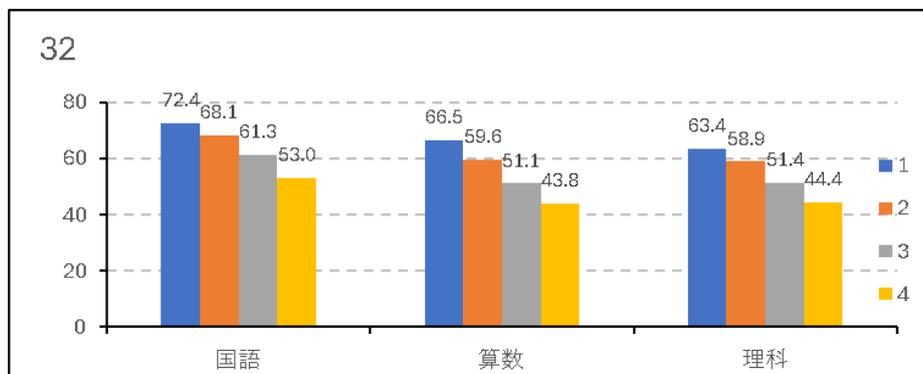
# 質問調査の分析から

## クロス分析：児童生徒質問調査 × 正答率

【小学校】

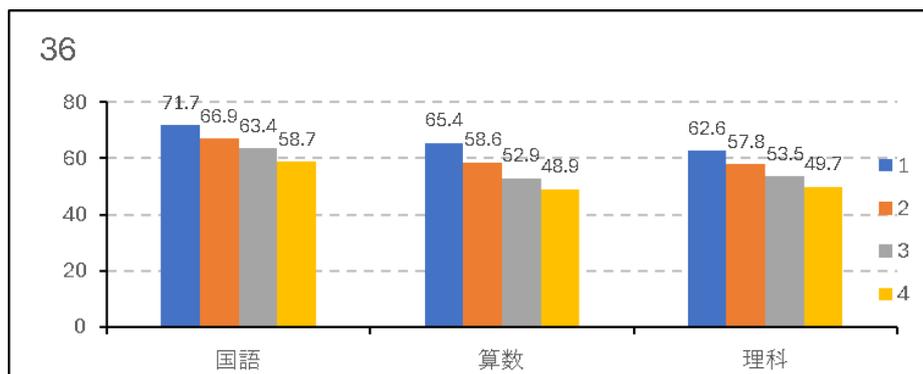
○以下の質問項目に肯定的に回答している児童ほど、**3教科とも正答率が高い傾向**が見られた。

Q32：授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた【自己調整】



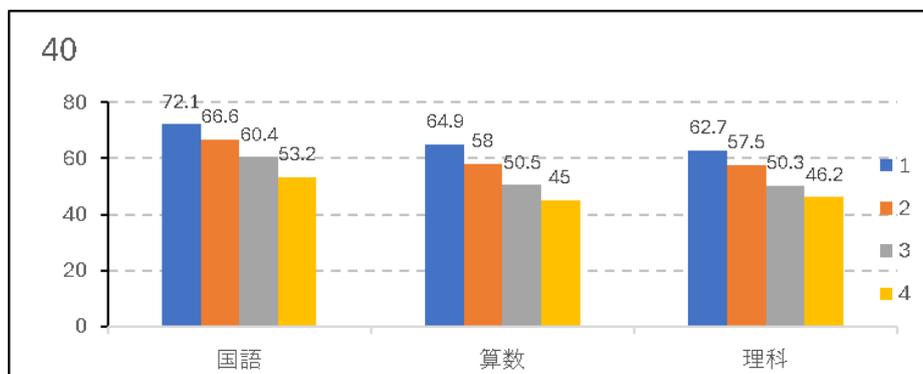
1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

Q36：学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか【振り返り】



1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

Q40：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか【探究】

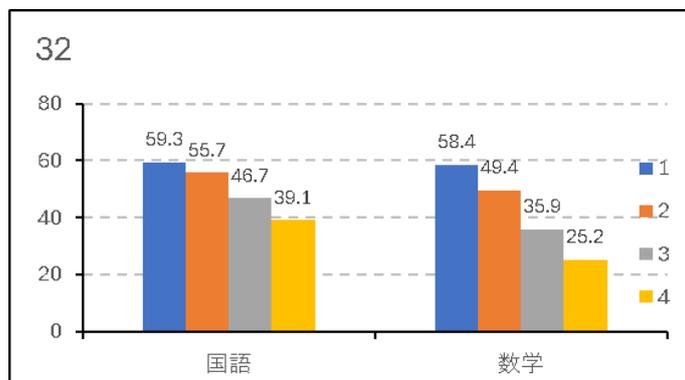


1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

【中学校】

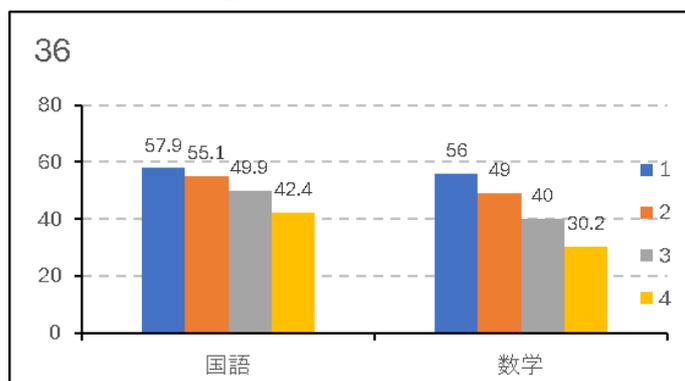
○以下の質問項目に肯定的に回答している生徒ほど、2教科とも正答率が高い傾向が見られた。  
(中学校理科の結果はIRTスコアで示されているため、表示していません)

Q32：授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた【自己調整】



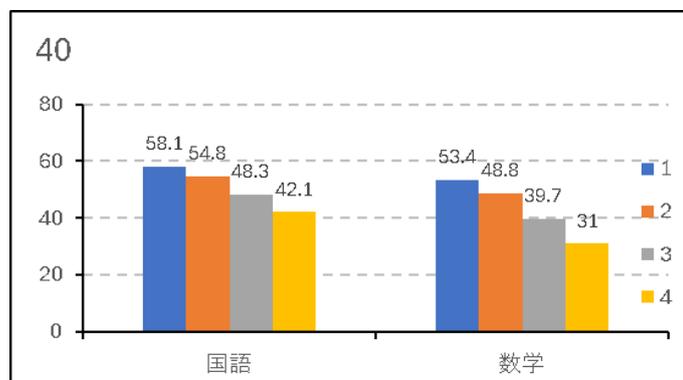
1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

Q36：学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか【振り返り】



1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

Q40：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか【探究】

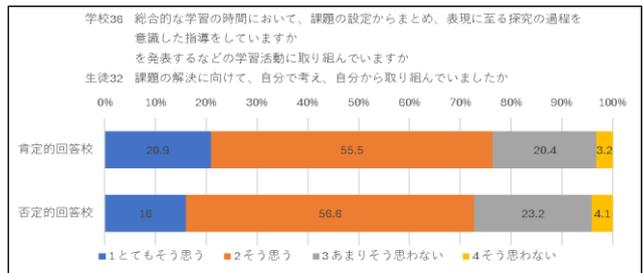
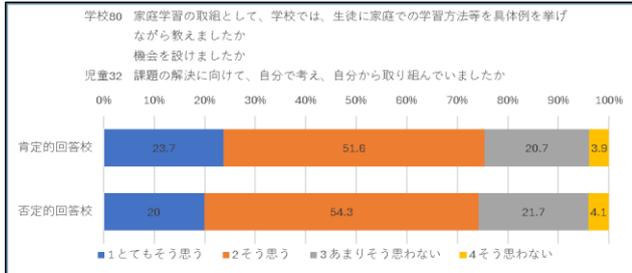


1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

## クロス分析：学校質問 × 児童生徒質問、児童生徒質問 × 児童生徒質問

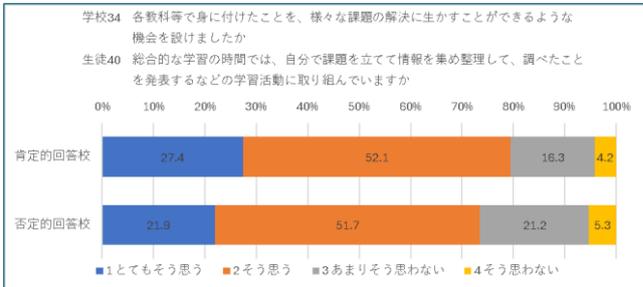
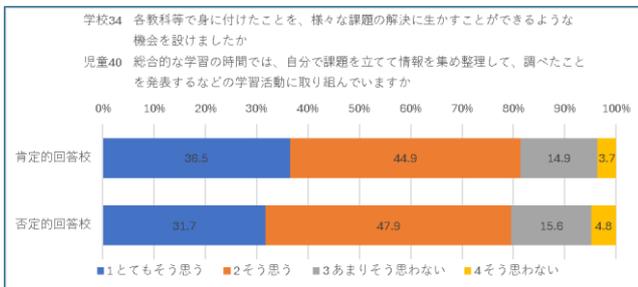
児童生徒質問項目と学校質問項目について分析したところ、次のような様子が見られた。

- 「32 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に対して肯定的に回答している児童生徒の割合は、小学校では「80 家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか」に、中学校では「36 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか」に当てはまると回答した学校で高い傾向にあった。

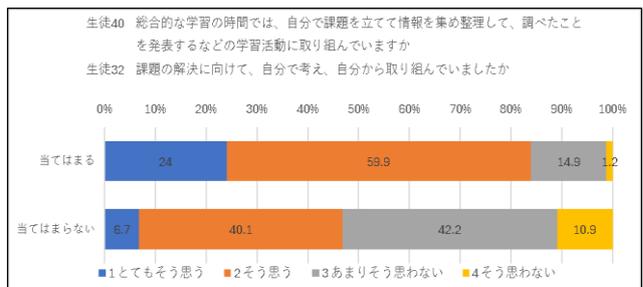
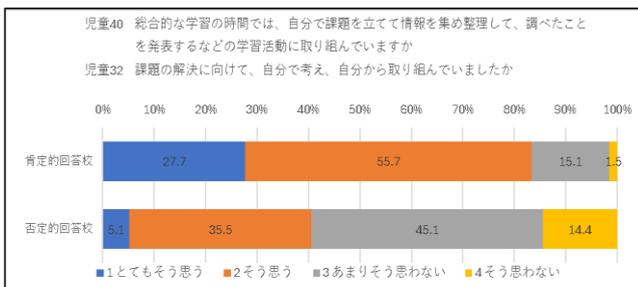


小学校では、学び方や内容をある程度例を挙げて示すことが、中学校では、授業の中で探究の過程を意識して指導することが、児童生徒が主体的に課題の解決に取り組むことにつながるといえる。

- 教科横断的な視点や、探究的な学びの視点を取り入れることが意識されている学校（例：「学校34：各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか」）では、「児童生徒40：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対して当てはまると回答している児童生徒が多い。



また、「児童生徒40：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対して当てはまると回答している児童生徒は、「児童生徒32：課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に当てはまると回答している児童生徒が多い。



## VIII 提言

# 令和7年度全国学力・学習状況調査

## 調査結果を踏まえた学力向上7つの提言

### 提言1 単元などの内容や時間のまとまりを意識した指導の充実

1 単位時間の授業は大切です。しかし、そこでの学びが児童生徒の中でつながらなければ、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚することができません。「質問項目 36：学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」、「質問項目 37：授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」に肯定的に回答している児童生徒は、各教科の平均正答率が高い傾向にありました。児童生徒が学習した内容について自ら振り返り、次の学習に生かしていくためには、教員自身が1単位時間の授業計画だけでなく、単元などの内容や時間のまとまりの中で、育成したい資質・能力を明確にした上で指導計画を立て、児童生徒の学びをつなげていくこと、変容を自覚させていくことが必要です。それはまた、教科の「見方・考え方」を働かせることにも結び付くはずで、これらの改善が、児童生徒に教科を学ぶ意義を実感させ、「学びに向かう力」を育むことにもつながります。

### 提言2 指導と評価の一体化の充実

評価の前提となる、育成を目指す児童生徒像は明確でしょうか。学習評価は、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくこと、そして、その指導のもとで児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにするために行うものです。育成を目指す児童生徒像をしっかりとイメージした上で、現時点での児童生徒を冷静に分析し、指導を通して児童生徒がどう伸びたのか、どう変容したのかを見取り、一人一人にその成果を返していくとともに、教員が自らの指導を改善していくという認識が重要です。

### 提言3 認知能力と非認知能力の一体的な育成

認知能力と非認知能力は相互に関連し、支え合って育っていくものであることから、一体的な育成を図っていくことが重要です。あらゆる非認知能力を網羅的に育成しようとするよりも、各校の教育目標と照らし合わせ、育成を目指す児童生徒像に則って「特にこういう力を伸ばそう」と決めることが必要です。そして、校内研修等を通じて全教職員で共通理解を行い、学校の教育活動全体を通して育成を目指していくことが大切です。

#### 提言4 調査対象教科だけでなく、全ての教科及び領域での指導の充実

「質問項目（小）51：国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか」「質問項目（中）50：国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか」「質問項目（中）59：文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか」に肯定的に回答している児童生徒は、教科に関わらず平均正答率が高い傾向にありました。文章を読む力が大切であることは従前から言われていることではありますが、改めてその重要性を認識し、全ての教科及び領域で文章を読んで理解する学習活動を実施することが大切です。

#### 提言5 学んだことを生かし、自ら課題を設定し解決する課題解決型の学習の充実

「質問項目 32：昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」と「質問項目 40：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」のクロス分析から、総合的な学習の時間における探究的な学習の取組の経験と各教科における課題の解決に向けて自ら取り組む姿勢には関連が見られます。各教科の学習を通して得た学ぶ力を、全ての教科の学びへと生かしていくという探究の機会を充実させることが大切です。

#### 提言6 生徒指導の4つの視点を活かした学級経営

生徒指導の実践上の視点（自己決定の場の提供、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、安全・安心な風土の醸成）を生かした学級経営が大切であることは言うまでもありません。教員の児童生徒への適切な言葉かけや働きかけによって、学級は落ち着きます。児童生徒一人一人が、学級が楽しい、安心できるという感覚をもつ中で、他者の意見を聞いて自らの考えを深めたり、相手に伝わるように工夫しながら発表をしたりといった学習活動を行っていくことが大切です。

#### 提言7 実践的な校内研修、指導の振り返りと改善の充実

実践的な校内研修を行うこと、校内研修の質を向上させることを通して、学校としての「指導力」を組織的に向上させることが必要です。管理職のリーダーシップの下、目指す児童生徒像を全教職員で共通理解し、児童生徒の現状を正確に把握し、どうすればねらいに近付けるのか仮説を立て、全教職員がそれぞれの立場から一人一人の児童生徒に適切な指導・支援を行い、指導の成果について検証し、指導改善を行うことが重要です。

学校の教育活動について、教員の観察と客観的データの両輪から児童生徒の伸びと変容を把握し、指導を振り返り、改善していく学校文化を醸成していくことが必要です。「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」の結果データも最大限活用してください。